

平成25年度

「基礎・基本習得のための実践研究事業」

はばたく群馬の 指導プラン



実践事例集 《中学校編》

平成26年3月

群馬県教育委員会
群馬大学教育学部・附属学校共同研究センター

平成25年度

「基礎・基本習得のための実践研究事業」

はばたく群馬の 指導プラン

実践事例集 《中学校編》

平成26年3月

群馬県教育委員会

群馬大学教育学部・附属学校共同研究センター

平成25年度基礎・基本習得のための実践研究事業

群馬県教育委員会では、「ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査」や「全国学力・学習状況調査」等の結果を分析し、群馬の子どもたちの「生きる力」を一層高めるために、伸ばしたい資質・能力、基本的な指導法を示した『はばたく群馬の指導プラン』を平成24年3月に作成しました。そして、この指導プランを活用した授業改善の推進を重点課題の一つとし、指導プランに示した各教科等における伸ばしたい資質・能力や指導のポイント等を、実際の授業を通して県内の先生方に理解していただきたいと考え、本事業を実施しています。

本冊子にまとめた実践は、本事業で提案された公開授業の概要をまとめたものです。各学校の授業改善に生かしていただければ幸いです。

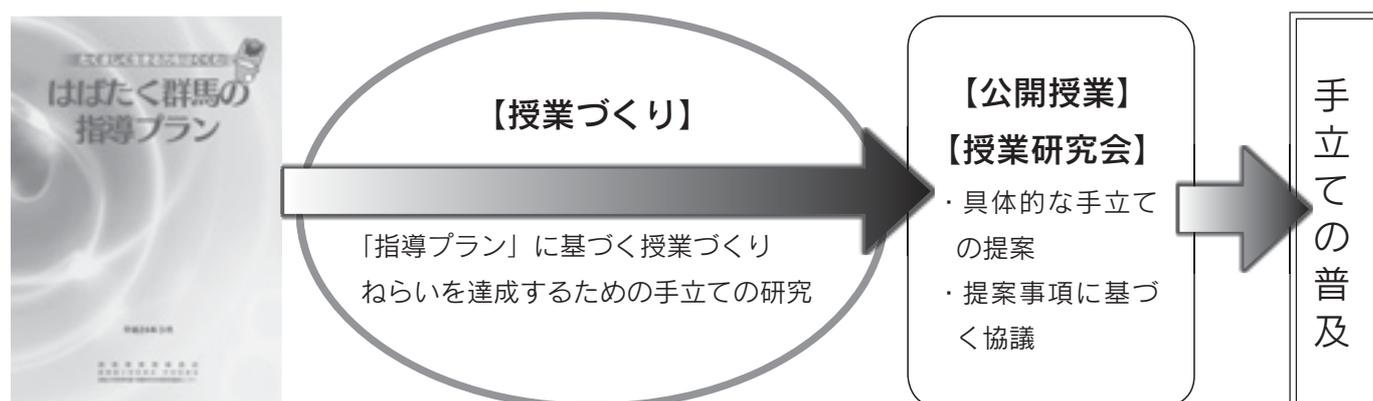
1 目的

「はばたく群馬の指導プラン」に基づく各教科等の授業改善を推進し、児童生徒の基礎・基本の習得に資する。

2 方法及び内容

中学校の優れた実践者に、「はばたく群馬の指導プラン」に基づく授業づくり等を依頼し、公開授業を通して、その手立て（展開例、構想例等）を全県に普及する。

県教育委員会は、実践者とともに、授業づくりに取り組む。



3 学校・授業者及び公開授業期日

教科等	学校・授業者		公開授業期日
国語	伊勢崎市立宮郷中学校	三井柳仁 教諭	11月 7日 (木)
社会	沼田市立白沢中学校	今井幸生 教諭	10月 1日 (火)
数学	高崎市立箕郷中学校	竹鼻弘之 教諭	10月18日 (金)
理科	長野原町立西中学校	長井隆行 教諭	11月28日 (木)
音楽	藤岡市立小野中学校	諏訪部光昭 教諭	10月 9日 (水)
美術	太田市立宝泉中学校	久保田裕 教諭	11月29日 (金)
保健体育	千代田町立千代田中学校	太田康子 教諭	11月21日 (木)
技術分野	前橋市立木瀬中学校	上原和暁 教諭	11月25日 (月)
家庭分野	安中市立第二中学校	土屋真美 教諭	11月26日 (火)
外国語	桐生市立相生中学校	星野喜久江 教諭	10月17日 (木)
道徳	渋川市立赤城北中学校	舩倉敏郎 教諭	10月18日 (金)
総合的な学習の時間	富岡市立東中学校	森田和樹 教諭	2月 7日 (金)
学級活動	前橋市立第五中学校	佐々木研 教諭	10月25日 (金)

4 授業における提案事項

(1) 「伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力」の明確化

授業のねらいに基づいて伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力を明確にした上で、表れてほしい生徒の意識を具体的にイメージする。そのため、ねらいも教師の視点での記述としている。

(2) 具体的な手立て

明確にした資質・能力を伸ばす（身に付けさせる）のにふさわしい学習活動を設定し、具体的な手立てを考える。

* 「はばたく群馬の指導プラン」の
関連ページを記載

【本時について】

〈ねらい〉
まつり縫いの特徴や縫い方を考えさせ、まつり縫いによる

↓

〈伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力〉

- ・手縫いの基礎（玉結び、玉どめ、なみ縫い）の技術
- ・まつり縫いの特徴や縫い方の理解
- ・まつり縫いによる裾上げを行う技術

↓

「指導プラン」P56

〈そのために取り入れた手立て〉

①まつり縫いの特徴や縫い方のコツを見出す活動の工夫

- ・まつり縫いとなみ縫いを比較する活動
- ・各自のコツの共有とそれを試す場の設定

②一人一人の技能の差に応じた支援の工夫

- ・見本（実物、実物大のカラーコピー）の準備
- ・各班1台のタブレットPC（示範動画を収めたもの）の配
- ・各班1名のゲストティーチャーの配置



5 授業研究会の進め方

〈授業前〉提案事項と授業研究会の進め方について説明する。



〈授業中・授業後〉授業を参観し、気づきを付箋紙に記入する。

視点例：①伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力について
②提案する手立てについて
・よかったところ ・改善した方がよいところ



〈グループ別協議〉（5～6名）

- ①1人ずつ簡単に説明しながら、付箋紙を「まとめのシート」に貼る。
- ②付箋紙に書かれた内容を仲間分けし、小見出しを付けながら、本時の授業について整理する。
- ③改善した方がよいところについては、改善策を検討し、「まとめのシート」に具体的に記入する。



〈全体協議〉

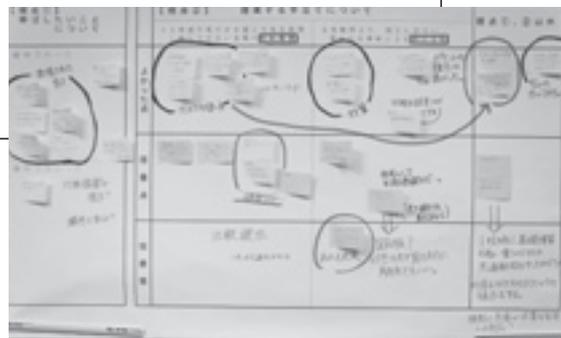
- ①各班ごとに、協議された内容を発表する。
- ②発表された内容を協議し、提案事項について深める。



〈個人の振り返り〉

- 授業及び授業研究会を振り返り、アンケート用紙に記入する。
 - ①今回の公開授業、授業研究会で参考になったこと（選択）
 - ②特に参考になったことや今後の実践に生かしたいこと（記述）

ワークショップ形式で、
提案事項について協議を
行う。



目 次

【国 語】



伊勢崎市立宮郷中学校

P.1

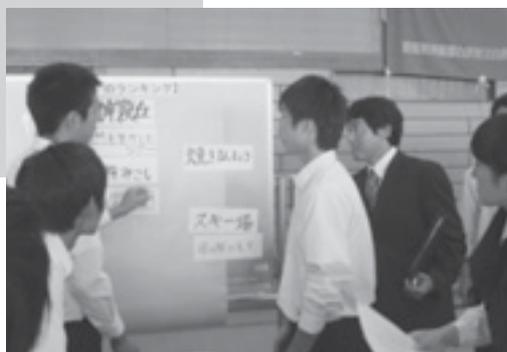
三井柳仁 教諭

第2学年 『筆者の論理の展開について考えよう』

(「モアイは語る—地球の未来」)

文章に用いられている「例示」の効果について
考える授業

【社 会】



沼田市立白沢中学校

P.4

今井幸生 教諭

第3学年 『地方の政治と自治』

政治に参加する際の見方や考え方に気付かせる
授業

【数 学】



高崎市立箕郷中学校

P.7

竹鼻弘之 教諭

第2学年 『平行線と角』

くさび形の四角形がもつ性質を説明する授業

【理 科】



長野原町立西中学校

P.10

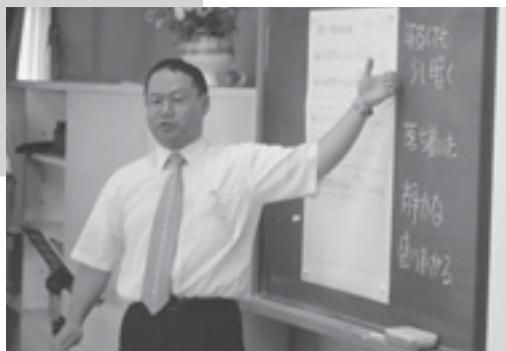
長井隆行 教諭

第1学年 『身のまわりの物質（水溶液の性質）』

冷やした時に再結晶ができる理由を溶解度と関
連付けて説明する授業

目 次

【音 楽】



藤岡市立小野中学校

P.13

諏訪部 光 昭 教諭

第1学年 『決まったリズムを使って旋律をつくろう』

音の高さやつながり方に気を付けて旋律をつくる授業

【美 術】



太田市立宝泉中学校

P.16

久保田 裕 教諭

第2学年 『ふくらむ形～思い輝く心の缶詰～』

材料の質感や特性を生かして構想する授業

【保健体育】



千代田町立千代田中学校

P.19

太 田 康 子 教諭

第1学年 『器械運動「マット運動」』

運動の行い方や技能のポイントを明確にしたマット運動の授業

【技術分野】



前橋市立木瀬中学校

P.22

上 原 和 暁 教諭

第1学年 『ペンスタンドをつくろう』(導入題材)

正確な接合に関する知識を身に付ける授業

目 次

【家庭分野】



安中市立第二中学校

P.25

土 屋 真 美 教諭

第1学年 『自分らしく快適な衣生活のために』

まつり縫いの習得に結び付ける授業

【外国語】



桐生市立相生中学校

P.28

星 野 喜久江 教諭

第3学年 題材名：『身近な話題についてディスカッションをしよう』

意味のかたまりについての気づきを促す授業

【道 徳】



渋川市立赤城北中学校

P.31

羽 倉 敏 郎 教諭

第3学年 『最後までやり抜く心』1-(2) 希望・勇気・やり抜く強い意志
資料名 ボクは新人(学研 中学生の道徳3年 かけがえのないきみだから)

ねばり強く最後までやり抜こうとする意欲を育てる授業

【総合的な学習の時間】



富岡市立東中学校

P.34

森 田 和 樹 教諭

第1学年 『世界遺産伝道師になろう』

整理・分析した思考の過程を生かして表現する授業

【学級活動】



前橋市立第五中学校

P.37

佐々木 研 教諭

第3学年 『学級全員で卒業まで充実した生活を送るための取組を決めよう』

異なる意見に耳を傾け、折り合いを付けて話し合う授業

実践事例【国語】 文章に用いられている「例示」の効果について考える授業

第2学年 単元名：『筆者の論理の展開について考えよう』

(教材文：「モアイは語る―地球の未来」、「イースター島にはなぜ森林がないのか」)

【本時について】

〈ねらい〉

二つの文章の違いを整理し、少人数グループによる意見交換を通して、筆者が主張を伝える上で用いている例示の効果について考えを深めさせる。

〈伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力〉

- ・段落の関係性を表す接続語の知識
- ・文末表現に関する知識（問題提起、答え、理由、意見と事実 等）
- ・文章中の事実や根拠を的確に読み取り、筆者の意見を理解する力
- ・例示の効果について考え、筆者の論理の展開を理解する力 **【指導プラン】 P 8**



〈そのために取り入れた手立て〉

①補助教材を用いての比較読み

- ・同じテーマで例示が違う補助教材文を用意し、比較して読ませる。
- ・教材文を一枚のプリントにし、比較しやすくする。
- ・疑問、例示、主張等、色分けをさせる。

②学びを深めるためのグループ活動の工夫 **【指導プラン】 P77**

- ・各グループを均等な力になるように意図的に編成し、活発な話し合いが進められるようにする。
- ・4～5人の少人数編成にし、考えを広げ、自信をもって発表できるようにする。
- ・グループで話し合ったことを全体で発表させ、全体での交流を基に、再度自分の意見や考えを見直させる。



単元の目標

文章全体と部分の関係をとらえ、主張の根拠となる例示に着目し、筆者の論理の展開について考えさせる。

指導計画（全8時間） **【指導プラン】 P76**

過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1時	○主教材文「モアイは語る」を読み、本単元の学習課題をつかむ。 学習課題 「同じ題材をテーマとした二つの説明文を読み、地球環境に関わる筆者の主張に対する自分の考えをまとめよう」
課題追究	第2～6時	○文章構成に着目し、内容のまとまりをとらえる。 ○イースター島の文明崩壊の理由を考え、本論の内容を読み取る。 ○序論・本論と結論との関係を読み取り、筆者の主張とその根拠をとらえる。 ○補助教材文「イースター島にはなぜ森林がないのか」を読み、文章構成をとらえ、主教材との共通点、相違点を探してワークシートに書き出す。 ○二つの文章を読み比べ、筆者の主張に対する例示の効果について考える。【本時】
まとめ	第7～8時	○身近な例を入れた主張に対する意見文を400字程度で書く。 ○書いた文章を読み合い、自分の考えを深める。 ○単元の学習を振り返り、論理の展開についての考えや学んだこと、それらを生かせる場面などについて文章でまとめる。

単元の学習課題を明確に示す

- 単元を貫く言語活動を単元のゴールをイメージできる言葉にして、生徒の疑問や感想と結び付けながら学習課題として示す。

視点を示し、主体的に読ませる

- 自分の意見をまとめることを目的に「文章の構成」「例示の効果」など指導事項に関わる観点で文章を読ませる。



同じようなことを言っているのに、筆者によって例示の違いがあるのね。

身に付けさせたい力を一般化させる

- 例示と主張の関係を視点に、論理の展開について考えさせるなど、各自で単元を通して学んだことについて振り返らせる。振り返った内容を文章でまとめさせ、今後の学習で生かせるようにする。

本時の流れ

1. 本時の学習課題を把握する。

T：前時は、「モアイは語る」と「イースター島にはなぜ森林がないのか」の例示の共通点と相違点を付箋紙に書きました。今日は、例示が主張を伝える上で、どんな効果があるのか考えていきたいと思います。



【学習課題】

二つの文章を読み比べ、例示は主張を伝える上で、どんな効果があるか考えよう

学習課題を明確にする

- 単元を貫く言語活動と関連させながら本時の学習課題を示し、学習内容や授業の流れの見直しをもてるようにする。

2. 課題を追究する。

○二つの文章における例示の共通点と相違点を模造紙に整理する。

T：各グループごとに、付箋を貼って、情報を共有しましょう。
T：プリントをよく見直そう。例示は青で線が引かれていますね。
S：「モアイは語る」だけに書かれている例示が見付けにくいね。



文章を比較して
読ませる

- 複数の文章を比較して読ませることで、文章の特徴をとらえやすくする。
- また、教材文を一枚のプリントにしたり、疑問、例示、主張等を色分けさせたりすることで、文章の構造を視覚的にとらえさせながら、文章全体と部分の関係を考えさせる。
(手立て①)

○相違点に着目し、例示の効果について考える。

T：相違点であるそれぞれの文章にしかない例示があることで、どのような印象を受けますか。それが効果になりますね。自分の考えを書いてみましょう。

〈ワークシートから〉

- ・部族間の抗争など、人間が自然の破壊の原因をつくっていることを印象付けている。「モアイは語る」
- ・動物もイースター島を破壊することに関わっていて、自然破壊が人間だけでなくいろいろなことと関係していたことを印象付けている。
「イースター島にはなぜ森林がないのか」 など



自分の意見をもった上で
学び合いをさせる

- 主体的に意見交流ができるよう、グループで交流する前に、自分の考えをもたせておく。
- 視点を絞り、何について考えるかを明確に示すとともに、自分の考えをまとめたり、意見を交流したりする際には、常に文章の表現に着目させ、表現に基づいて考えられるようにする。

○グループで例示の効果について意見交換をし、考えを整理する。

・意見交流の視点を示し、話し合わせる。
T：グループで効果について考えてもらいますが、「モアイは語る」については「人口」、「イースター島にはなぜ森林がないのか」については「ラット」に着目して考えてみましょう。
S：「イースター島にはなぜ森林がないのか」のラットの例示は、動物が自然を破壊しているということ的印象付けていると思う。
S：ラットのことが書いてあるから人間だけじゃなくいろいろなことが関係して自然が破壊されていったという部分が強調されている気がする。
S：「モアイは語る」には、人口のことがたくさん書かれていて、自分自身、人口がこんなに増えていたことに驚いたので、読む人に驚きを与えて、印象を強めているのかもしれない。



グループの構成を工夫する

- 教師のねらいに応じて各グループを均等な力にするなど、意図的にグループを編成する。人数を4～5人に絞ることで、自信をもって発表したり、発言する機会を増やしたりできるようにする。
(手立て②)
- 本時の課題に応じて意見交流の視点を絞ることで、目的を明確にして話し合えるようにする。

○各グループの考えを整理する。

T：「イースター島にはなぜ森林がないのか」の「ラット」の例示について説明してください。

S：野生化したラットが、椰子の木の再生を妨げたことを挙げて、森林破壊への印象を強めている。

S：森林の破壊は、人間だけではなくてラットも関わっている。

S：人間が持ち込んだものが逃げて野生化して増えて、椰子の木を食べた。

T：人間が持ち込んだことで、生態系まで傷つけてしまった。これが筆者の「子孫に深く思いをめぐらす」ことが必要だという主張に説得力をもたせていますね。

T：「モアイは語る」のほうは、どうでしょうか。「スケール」の大きさという言葉がありますが、説明してください。

S：具体的な数字を出して、増え方を実感させている。

S：人口が増加している中で、農耕地には限界があるので、資源を大切にしなければならないということにつなげようとしている。

T：具体的な数値があること、いろいろな例があることで、説得力が増しますね。



グループでの交流を クラスで共有する

○発表させる際には、各グループでまとめた模造紙を掲示させ、各グループの考えの中の代表的なものについて、説明させる。

○特に、グループの交流の中で、よい意見が出ていたグループについては、教師が意図的に発表させる順番を考えて指名する。

○グループで話し合ったことを発表させ、クラス全体で考えを共有させるとともに、発表された考えを基に、自分の考えと比較させることで、再度自分の考えを見直させる。
(手立て②)

4. 本時のまとめをする。

T：学んだこと、確認できたことなどをまとめましょう。



〈ワークシートから〉

- ・具体的な数字が入ることで、数の変化が具体的にわかるので、説得力が増すことがわかった。主張の根拠として、どんな例示をするかということをよく考えて、自分でも文章を書いていきたい。
- ・二つの文章を比較して読むことで、筆者の言いたいことによつて例示も違うことに気付いた。どちらの文章も主張と事例の関係がよくとれていて参考になった。自分で文章を書くときも、主張と例示の関係に注意して説得力のある文章にしていきたい。 など

本時の学習について 文章でまとめさせる

○本時の学習を振り返らせ、学んだことや今後の学習に生かせることなどを文章でまとめさせ、身に付けさせたい力の一般化を図る。

○一般化したことを既習事項として蓄積させ、今後の学習で考え方の参考にさせる。

授業研究会のまとめ

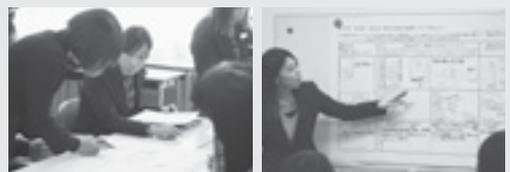
【授業研究会での意見】

〈よかった点〉

- ・文章を比較するために、一枚の紙に文章全体を載せたり、問題提起や主張などを色分けしたりしたことは有効であった。
- ・自分の考えがもてない生徒も、グループ活動を取り入れたことで、他の考えを参考にして学習が進められていた。
- ・本文に戻って確認することが徹底されており、生徒が文章を基にしっかり考えていた。

〈改善点〉

- ・主張と例示の関係という視点を押さえておくと例示の効果についてより考えやすかった。
- ・これまでの授業や本時の中で「例示の効果」という言葉の意味をとらえさせておくと生徒も考えやすかった。
- ・例示を隠しておいて、主張との関係を考えさせてもよかった。



【参加者の声】(アンケートより)

- 比較読みをさせることで生徒の気付きが多くなることを実感した。自分でも実践したいと思う。
- 学び合いの実践の積み重ねがとても感じられた授業だった。日々の授業に生かしていきたいと思う。
- 「本時のねらい」に沿った見取りが行われていて、参考になった。授業研究会も指導主事の先生方に各班に入っただけ、気付かされるポイントが数多くあった。

実践事例【社会】 政治に参加する際の見方や考え方に気付かせる授業

第3学年 単元名：『地方の政治と自治』

【本時について】

〈ねらい〉

一人一人が考えた「よりよいまちづくりへの提案」をランク付けし、その理由について考えさせることにより、「政治参加をする際の見方・考え方」に気付かせる。



〈伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力〉

- ・政治や社会参画への関心
- ・政治参加をする際の見方や考え方
- ・よりよいまちづくりについて、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考える力



〈そのために取り入れた手立て〉

①政治について考える際の、視点や判断基準の提示

「一番必要なものは何か」「より多くの人のためになっているか」「実現可能か」「より効果的なものはないか」という、政治参加をする際の見方や考え方を明確にする。

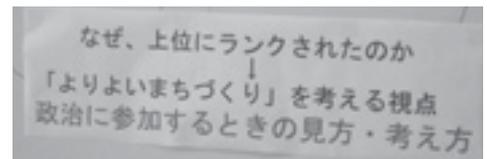
②「政治参加をする際の見方・考え方」に気付かせるための工夫

〈各班〉

- ・各自が考えた案をランク付けする。
- ・上位にランク付けした理由を考える。

〈全体〉

- ・各班から出されたランク付けの理由をKJ法を用いて分類・整理し、視点を明らかにする。



題材の目標

地方公共団体の仕事や役割について、具体的な事例を基に調べることを通して、地方自治への関心を高め、住民の一人として主体的に地域の発展に寄与しようとする自治意識の基礎を育てる。

指導計画（全8時間） 『指導プラン』 P79

過程	時間	主な学習活動	
つかむ	事前	○身近な人へのアンケート調査を実施する。（沼田市のまちづくりの課題）	単元を貫く課題を設定する ○導入では、聞き取り調査等を行い、生活と結び付けながら、生徒に課題意識をもたせる。
	第1時	○アンケート結果を分類・整理し、単元を貫く課題を設定する。 『沼田市をよりよいまちにするために、私たちはどのように関わっていくことができるのだろうか。』	
追究する	第2～7時	○沼田市役所の組織や仕事内容を調べる。 ○沼田市の財政を調べる。 ○沼田市の市政に住民が参加する方法や事例を調べる。 ○沼田市をよりよいまちにするための提案を考える。 ○各自が考えた提案をランク付けし、その理由を考える。 【本時】 ○「政治参加する際の見方・考え方」を基に、各自の提案を修正する。	意図的な資料を提示する ○生徒が、興味・関心をもって追究できるように、具体的な事例や資料を提示する。
まとめる	第8時	○市役所職員をゲストティーチャーに迎え、提案を発表する。 ○単元を貫く課題に対する自分の考えをまとめる。	課題に対する考えをまとめさせる ○感想のみを書かせるのではなく、課題に対してわかったことを、根拠や解釈を含めて、自分の言葉や図、表でまとめさせる。

本時の流れ

1. 本時の課題を把握する。

【単元を貫く課題】 沼田市をよりよいまちにするために、私たちはどのように関わっていくことができるのだろう。

【本時の課題】 各自が考えた「よりよいまちづくりへの提案」をランク付けし、その理由を考えよう。

2. 班ごとに課題を追究する。

○一人一人が、よりよいまちづくりの提案を発表する。

・発表は、班のテーマとの関連やセールスポイントを中心に行われた。
T：なぜ、この案を提案するのか、理由もしっかり説明しましょう。

【各班のテーマ例】

3班：医療・福祉を充実させ、人に優しいまちにしよう。
4班：公共施設を充実させ、市民の生活を豊かにしよう。



○それぞれの提案を、ランク付けする。

・ランク付けの際には、その順位にランクする理由を述べさせた。
<2班：「観光を発展させ、まちを活性化させよう」の話し合い>

S：沼田城を再建するのは、お金もかかるし、実現するのは難しいから、上位には入らないよ。
S：観光地を巡るだけよりも、温泉施設を作った方が、建設会社や温泉施設など、働く場所が増えて有効だから上位にしよう。



○上位にランク付けした理由を話し合う。

・上位3位までにランク付けした提案について、なぜその提案を上位に選んだのか、理由を考えさせた。
S：この3つの提案は、どれも「実際にやれそう」だね。
S：他の提案よりも、観光の発展には「効果がありそう」だね。



3. 全体で課題を追究する。

○班の検討結果を交流する。

・「上位に選んだ理由」を2つの班に発表させ、発表以外の班は、理由を書いたフリップを黒板に貼らせた。



○追加された課題を把握する。

【追加課題】 「よりよいまちづくり」には、どのような見方や考え方が、必要だろう。

T：みなさんが発表した「上位に選んだ理由」は、「よりよいまちづくりを考えるための基本」となる考え方です。
T：出された理由を分類・整理して、「よりよいまちづくり」を行う際には、どのような見方や考え方が必要か明らかにしましょう。

学習課題を確認させる

- 最初に単元を貫く課題を確認し、その後、本時の課題を確認することで、単元の中の本時の位置付けを確認させるとともに、本時の学習の見通しをもたせる。
- 本時は、課題が前時から継続しているため、課題の答えは予想させないが、基本的には、本時の課題の答えを予想させる。

情報を共有させる

- 理由や根拠を中心に説明させることで、発表する内容を焦点化させる。
- 言葉だけの説明では発表内容が伝わりにくいため、図や資料など、視覚的な補助資料の活用を工夫させる。

話し合いの視点を与える

- 本時のねらいに沿った話し合いをさせるために、話し合いの視点を与える。
(例)
・「観光を発展させる」ためには、どの提案がいいか。
- 出された意見を比較させる場合は、共通点や差異点を考えさせる。
(例)
・上位にランクした提案に着目させ、選んだ理由の共通点を考えさせる。
・上位の提案と、下位の提案の違いを考えさせる。 <手立て②>

学習課題を追加する

- 本時のねらいに迫るために、必要に応じて、学習課題を追加提示する。

○ランク付けした理由の分類・整理を行う。

・各班から出された「上位に選んだ理由」をKJ法を用いて分類・整理させた。

S:「働ける人が多い」と「多くの人に効果がある」は、同じグループにしよう。

S:「あまり費用がかからない」と「他の市でもやっている」は、実現できそうという点で、共通しているよね。

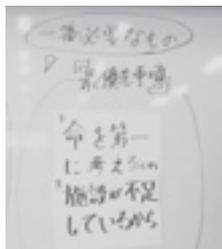


○分類されたグループにタイトルを付ける。

・最初に一人一人にタイトルを考えさせることで、自分の考えをもたせた。その後、全体で意見を交流し、上位に選んだ理由の基準を一般化させた。

T:まずは、一人一人で、それぞれのグループにタイトルを付けてみましょう。

S:「必要性が高い」「他のものは今すぐに必要ない」「命に関わる」だから、「一番必要なものは何か」というタイトルを付けたらどうかな。



【生徒が考えたタイトル】

「一番必要なものは何か」「より多くの人のためになっているか」「実現可能か」「より効果的なものはないか」

4. まとめと予告を聞く。

・生徒が考えたタイトルは、政治参加や社会参画する際の基本となる見方や考え方であることを説明した。また、公民で学習した「効率と公正」の考え方につながっていることにも気付かせた。



今日見付けた見方や考え方は、新聞やニュースを見る時、あるいは、選挙で候補者の意見を聞くときの視点や、どれがよいかを判断する際の基準にもなります。

T:次の時間は、今日みなさんが発見した「政治参加する際の見方・考え方」を基に、各自が考えた提案を修正してみましょう。

様々な意見を一般化させる

○分類・整理をする場合は、KJ法が有効な手段である。

○KJ法では、付箋やフリップを用いると視覚的にとらえやすい。

○分類・整理の視点を示す。

(例)

- ・全く同じものはどれか
- ・ほぼ同じものはどれか
- ・似ているものはどれか
- ・どういう点が似ているか
- ・グループごとにタイトルを付けさせることで、特徴を明確にさせたり、一般化させたりする。

〈手立て②〉

他の学習と関連させる

○本時の学習を、他の分野や他の単元の学習と関連させることで、社会的事象を多面的・多角的に考える力を育てていく。

○政治や経済分野の学習においても「対立と合意」「効率と公正」という視点で考えさせていく。

学習の見通しをもたせる

○課題の追究が次時も継続する場合は、次時への見通しをもたせる。

授業研究会のまとめ

【授業研究会での意見】

〈よかった点〉

- ・政治参加をする際の見方・考え方に気付かせたのは、社会参画の意識を育てる上で有効である。
- ・ランク付けは、「効率と公正」の考え方を想起させる上で効果的であった。

〈改善点〉

- ・ランク付けの理由を考える時間をもう少し確保することで、生徒からより多くの考えを引き出すことができたのではないかな。
- ・KJ法を生徒主体で行わせることで、生徒の気付きにつながるのではないかな。

【参加者の声】(アンケートより)

- 身近な事例を取り上げたり、ランク付けやKJ法による分類・整理をしたりするなど、今後自分の授業でも追試をさせていただきたい。
- 今まで政治的な見方や考え方の育成は、踏み込んで扱っていなかった内容なので、参考になった。



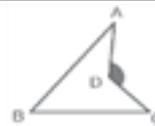
実践事例【数学】 くさび形の四角形がもつ性質を説明する授業

第2学年 単元名：『平行線と角』

【本時について】

〈ねらい〉

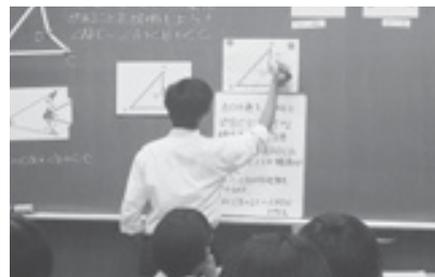
くさび形の四角形がもつ性質について、既習の図形の性質から根拠となるものを選び、筋道を立てて説明できるようにする。



〈伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力〉

- ・新たな図形の性質を演繹的に説明するには、既習の図形の性質に帰着させて考えていけばよいことへの理解
- ・見出したくさび形の性質を、三角形の内角と外角の性質、平行線の性質を利用して、根拠を明らかにし筋道を立てて説明する力

「指導プラン」P25



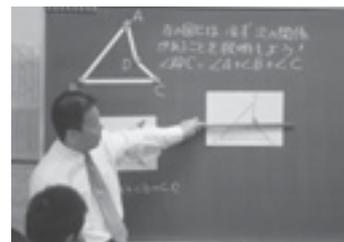
〈そのために取り入れた手立て〉

①見通しをもって考えるための工夫

- ・補助線に見立てた棒を図に重ねて動かすことで、様々な補助線を具体的にイメージできるようにする。
- ・生徒が考えた補助線が、どの既習事項と結び付くのか意識できるよう、その補助線で説明できる理由を必ず問い掛ける。
- ・試行錯誤しながら適切な補助線を見付けられるよう、くさび形の図が複数かかれたワークシートを準備する。

②根拠を明らかにし、筋道を立てて説明する力を伸ばすための工夫

- ・発表された考えがどの既習事項と結び付くのか考えさせる。
- ・図のみを発表させ、他の生徒に考え方を読み取らせたり、考え方を言葉で説明させ、どのような図になるか考えさせたりする。



単元の目標

観察、操作や実験などの活動を通して、平行線や多角形などの角の性質を見出し、その性質が成り立つことを、既習の図形の性質を根拠にして筋道を立てて説明することができるようにする。

指導計画（全8時間）

時間	主な内容	主な学習活動
第1 ～ 3時	平行線と角の性質	○対頂角の意味と性質、同位角、錯角の意味を知る。
		○平行線の性質、平行線になるための条件を調べ、説明し、平行線の性質を活用して問題を解決する。
第4 ～ 6時	三角形の角 (本時 第6時)	○三角形の内角と外角の性質について調べ、説明し、内角と外角の性質を活用して図形の角の大きさを求める。
		○くさび形の四角形の角の性質が成り立つことを、根拠を示しながら説明する。【本時】
第7 ～ 8時	多角形の内角と外角	○多角形の内角の和や外角の和の求め方を考え、説明し、その性質を活用して問題を解決する。

計画のポイント

平面図形の角の性質について系統的に理解させるために、

①まず、点、直線、2直線、3直線でできる単純な図形の角、より複雑な図形の角についてそれぞれ追究させ、その図形がもつ性質を見い出させる。

点の周りの角 → 平角 → 対頂角 → (平行線の)同位角・錯角 → 三角形の内角・外角 → 多角形の内角・外角



②次に、見出した図形の性質が常に成り立つことを、既習の図形の性質を根拠として、演繹的に説明する活動に取り組ませる。

(①と②を繰り返す。)

本時の流れ

1. 学習課題を把握する。

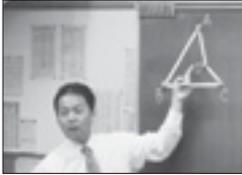
○既習の図形の性質を確認する。

- ・既習の6つの図形の性質（平行線の性質、三角形の内角、外角の性質等）を振り返らせた。



○学習課題を確認し、本時の学習の見通しをもつ。

- ・くさび形の図を提示し、どのような関係が成り立つと言えそうか問い掛けながら、本時の学習課題を確認した。



【学習課題】



左の図には必ず次の関係があることを説明しよう！
 $\angle ADC = \angle A + \angle B + \angle C$

2. 個別に課題を追究する。

○説明していくための方法や手順についての見通しをもつ。

- ・どうすれば説明できるか考えさせ、説明していく方法や手順を考えさせた。その際、補助線に見立てた棒を図に重ねて動かすことで、様々な補助線を具体的にイメージできるようにした。

T：どのようにしたら、図形に成り立つ関係を説明することができるだろう？

S：Dを通る直線を引いたらよいと思う。

T：なぜ〇〇さんは、ここに直線を引くとよいと考えたと思う？（補助線に見立てた棒を図に重ねる）

S：平行線の錯角を使って説明できると考えたのだと思います。

- ・複数の生徒に見通しを発表させるとともに、なぜその様に考えたのか全体に問い掛け、既習事項と結び付けて追究できるようにした。

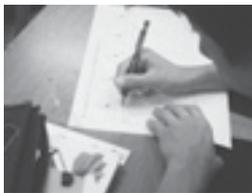


○見通しを基に、一人一人が課題を追究する。

（説明の仕方を考える。）

T：ワークシートに必要な線を入れながら、説明できるかどうか考えていこう。

- ・追究が進まない生徒には、黒板に掲示されているどの図形の性質が使えるかを教師と一緒に考えさせ、追究が進められるようにした。



・解決できた生徒には、ミニホワイトボードに説明を書かせるとともに、他の考え方で説明できないか問い掛け、複数の考え方で説明できるようにした。



3. 考えを発表し、全体で比較・検討する。

○自分なりの考え方で、くさび形の四角形がもつ性質を説明する。

- ①隣同士で、自分の考え方を説明し合う場を設け、全員の生徒が、自分の言葉で説明できるようにした。



既習事項の振り返り

- 前時までに学習した図形の性質を振り返る場面をつくり、本時の課題の追究に結び付けられるようにする。

学習課題の確認

- 本時の学習課題を確認し、学習の見通しをもてるようにする。
- 本時は、図形の角の関係がいつでも成り立つことを、帰納的ではなく、演繹的に説明することであることを確認した。

説明するための見通しを十分にもたせる！

〈手立て①〉

- 既習事項と結び付けながら、課題を追究させるための見通しをクラス全体で交流させる。

- 補助線が本時の追究のポイントになるので、補助線に見立てた棒を動かして見せることで、生徒が様々な補助線をイメージできるようにした。

- 生徒が考えた補助線が、どの既習事項と結び付くのか意識できるように、その補助線で説明できる理由を必ず問い掛ける。

つまずく場面や生徒に応じた支援の準備を！

- 本時は、既習の図形の性質と結び付けて考えられるように、既習の性質を再度振り返らせたり、具体的に補助線を例示したりした。

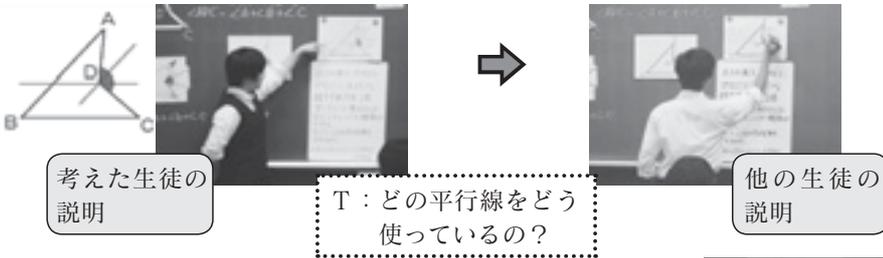
説明し合う活動の充実を！

- 発表する生徒だけの活動にならないように、クラス全体で説明し合えるようにすることが大切。
- その際、説明させることが目的ではなく、説明させることで、理解を深められるようにする。

②複数の生徒に自分の考え方を発表させ、クラス全体で共有し、考え方を深められるようにした。

〈説明ア：Dを通る2本の平行線を用いた説明〉

・考えた生徒に説明させた後、平行線の性質をどのように使っているのか問い掛け、他の生徒に再度詳しく説明させた。



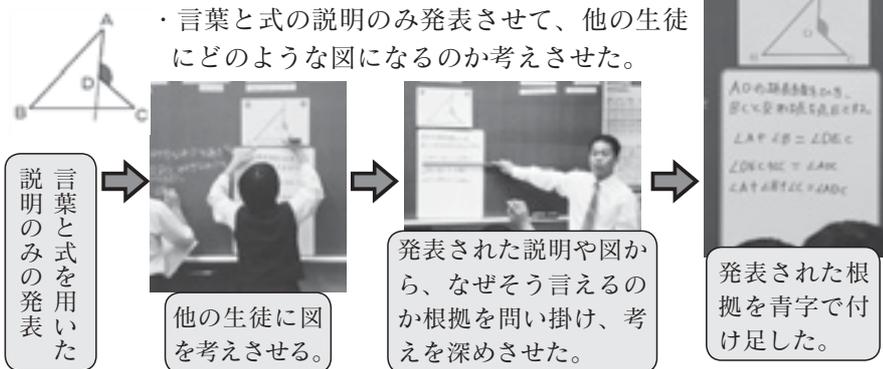
考えた生徒の説明

T：どの平行線をどう使っているの？

他の生徒の説明

〈説明イ：辺ADの延長線を用いた説明〉

・言葉と式の説明のみ発表させて、他の生徒にどのような図になるのか考えさせた。



言葉と式を用いた説明のみの発表

他の生徒に図を考えさせる。

発表された説明や図から、なぜそう言えるのか根拠を問い掛け、考えを深めさせた。

発表された根拠を青字で付け足した。

4. 学習のまとめをする。

○本時の学習でわかったことを振り返る。

T：今日の授業でどのようなことがわかりましたか。

〈生徒の振り返り〉(例)

三角形や平行線の性質を使うと、難しい角の性質も説明できる。



説明し合う活動を充実させるために

〈手立て②〉

○考えた本人に説明させるだけでなく、他の生徒に再度詳しく説明させたり、考えを読み取らせてから説明させたりして、考え方の理解を深められるようにする。

○本時は、特に次のような工夫を行った。

① 隣同士の説明

隣同士でペアになり、自分の考えを互いに説明させる。



② 説明ア

既習のどの性質を、どの様に用いているのか他の生徒に説明させる。



③ 説明イ

言葉と式の説明のみ発表させて、他の生徒にどう考えたのか推測させ、図を発表させる。さらに、なぜそう言えるのか根拠を考えさせ、他の生徒に説明させる。



授業研究会のまとめ

【授業研究会での意見】

〈よかった点〉

- ・伸ばしたい資質・能力を明確にして、授業づくりが行われていた。
- ・既習事項と結び付けながら、見通しを明確にもたせる場面があった。
- ・他の生徒の考えを読み取らせたり、根拠を考えさせたりする中で、生徒同士の学び合う姿が見られた。

〈改善点〉

- ・見通しをもたせる際に、出された考えを視覚的に残しておくべきである。
- ・それぞれの補助線を引いた意図を明確にできるようにしていくとよい。
- ・説明させた内容と、既習事項のフラッシュカードを結び付けて、視覚的に根拠がわかるようにするとよい。



【参加者の声】(アンケートより)

- ・伸ばしたい資質・能力、手立てを明確にした上で、授業提示していただき感謝。図をかいた生徒とは別の生徒に説明させること、また、説明を書いた後に図をかかせるなど、生徒の発表のさせ方の工夫をたくさん見ることができました。「はばたく群馬の指導プラン」に示されている指導上のポイントがたくさん盛り込まれた授業でした。
- ・考えた授業には、必ず相手に伝わる何かがあることがわかりました。教師として「授業をしっかりと考えてつくる」ことを常に心掛けていきたいと感じました。

実践事例【理科】

冷やした時に再結晶ができる理由を溶解度と関連付けて説明する授業

第1学年 単元名：『身のまわりの物質（水溶液の性質）』

【本時について】

〈ねらい〉

硝酸カリウム水溶液を冷やした時に取り出せた結晶の量が異っていた理由を、溶解度と関連付けて説明することができるようにする。

〈伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力〉

- ・溶解度が変化する物質は、冷やした時の温度の差によって析出する結晶の量が異なることの理解
- ・溶解度を示すグラフを読み取る力
- ・冷やした時に取り出せた結晶の量が異なる理由を考察する力

【指導プラン】P32

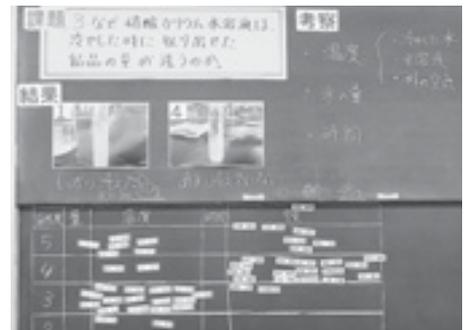
〈そのために取り入れた手立て〉

①考察を深化させるための発問の工夫

- ・個人の考察を交流する場面では、考察の根拠を問う。
- ・グラフを使って説明する場面では、「グラフのどこを見たのか、どのように見たのか」を問う。

②1時間の中で、溶解度の理解の深さが変容したことを実感させる工夫

- ・授業のはじめと終わりに、自分の考察の自信度を聞く。



単元の目標

物質が水に溶ける様子を観察したり、水に溶ける物と溶けない物を比較したりする活動を通して、水に溶けることを粒子のモデルと関連付けて理解することができる。また、水溶液から溶質を取り出す活動を通して、溶解度と関連付けて理解し、物質を分離する考え方をもつことができるようにする。

指導計画（全8時間の内、第2次「水に溶けている物質を取り出す」（5時間）の指導計画）【指導プラン】P88

過程	時間	主な学習活動	
ふれる	第1時	課題1：食塩と硝酸カリウムは、水に溶かしたときにどのように溶けるのだろうか。 ○飽和、飽和水溶液、溶解度について知る。 〈実験6-①〉 食塩と硝酸カリウムの溶解度を調べる	
	追究する	第2時	課題2：水溶液から溶質を取り出すには、水を蒸発させる以外に、どのような方法があるか。 ○水溶液から溶質を取り出す方法を考える。 ○結果を予想する。 ○実験方法を計画する。
		第3時	○冷やすことで結晶が取り出せることを検証する。 〈実験6-②〉 水に溶けた物質を取り出す 課題3：なぜ硝酸カリウム水溶液は、冷やした時に取り出せた結晶の量が違うのか。
	第4時	○課題3について、実験6-②の結果を基に考察し、溶解度のグラフを用いて再結晶の仕組みを考える。 【本時】	
まとめる	第5時	○別の物質の溶解度のグラフを読んだり、再結晶により析出する質量を求めたりする。 ○混合物から純粋な物質を取り出すための方法を考える。 ○大きなミョウバンの結晶をつくる。	

小学校の学習とつなぐ

- 小学校の学習内容を振り返り、既習内容を足掛かりに課題の予想が立てられるようにする。

生徒に問題を見いだし、見いださせた問題から課題を設定する

- 課題2を確かめる実験の結果を他の班と比較する中で、生徒に「なぜ硝酸カリウム水溶液は、冷やした時に取り出せた結晶の量が違うのか。」という問題を見いだし、見いださせることができるように、実験の方法を工夫する。

活用する場面を設定する

- 学習したことを活用する場面を設定し、学ぶ意義を実感させたり、学習内容の理解を深めたりする。

本時の流れ

1. 前時を振り返り、課題を確認する。

○前時の活動と本時の課題が想起できるよう、実験結果の写真を提示する。

T：前の課題「水溶液から溶質を取り出すには、水を蒸発させる以外にどのような方法があるか。」について実験をした時、冷やす方法があることは確認できましたが、班によって取り出せた結晶の量が違ってました。この部分にみんな疑問をもちましたね。

【課題】なぜ、硝酸カリウム水溶液は、冷やした時に取り出せた結晶の量が違ったのか。

2. 個々の考察を発表し、交流する。

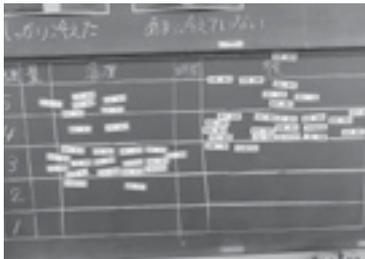
T：このように、結晶の量が異なった原因は何だと考えますか？

S：冷やした時に使った水の量が違ったからだと思います。

S：冷やす時間が違ったのだと思います。

S：冷やす温度が違ったのだと思います。

T：この3種類の考察以外の考えの人はいますか？いないようなので、みんなの考察はこの3つのどれかということですね。それでは、今の時点での自分の考察の自信の度合いを聞きます。ネームカードを黒板に貼ってください。



※ 自信度の指標
 〈自信度 5〉
 ・人に説明できるレベル
 〈自信度 3〉
 ・人に説明する自信はないが、自分なりに理解しているレベル
 〈自信度 1〉
 ・書けていない、もしくはなんとなくの理解で考察が書けたレベル

T：友達の考察について、何か意見がある人はいますか。

S：温度が変わると溶解度が変わるから、温度が原因だと思います。

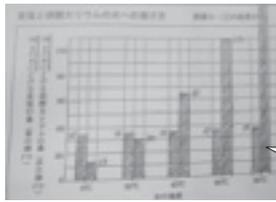
S：水の量には反対です。水の量が多ければ温度が下がるのだから結局は、結晶の量の違いは温度が原因だと思います。

S：冷やす時間には反対です。実験では、冷やす時間を計ってそろえたからです。

T：そうすると、結晶の量が異なる原因は温度の可能性が高そうですね。

3. なぜ、冷やす温度が違くと取り出せる結晶の量が違うのかをグラフと関連付けて考える。

T：「温度が変わると溶解度が変わるから」という発表がありました。前の時間に書いたこのグラフを使って、このことをもう少し、詳しく説明してもらいたいと思います。その前に、いくつか確認しておきます。グラフのどこを見たらよいですか。



S：硝酸カリウム水溶液だから赤い棒グラフを読みます。

T：赤いグラフをどのように見たらよいですか。

S：温度を冷やすから60℃の時と40℃、20℃の時の溶解度を比べながら見ます。

T：それでは、自分の考えをグラフを使って近くの人に説明しましょう。



生徒が見いだした問題を追究する

○生徒が問題を見いだせるような実験を意図的に設定し、(前時)生徒が見いだした問題を課題として取り上げ追究させる。

課題は解を求める疑問文になるようにする

○まとめを生徒が自力で行えるようにするために、課題の文は「まとめ」で言わせたいことや書かせたいことを問う疑問文にする。

異なる考察を意図的な指名により取り上げる

○考察を前時に書かせて、あらかじめ個々の生徒の考察を教師が把握しておくことで、生徒の考察を意図的に取り上げることができる。

考察の根拠を交流する前に自分の考察の自信度を聞く

○授業のはじめと終わりに、自分の考察の自信度を聞くことで、1時間の中で溶解度の理解の深さが変容したことを実感させる。〈手立て②〉

教師は、見通しをもって考察の根拠を意図的に交流する

○再結晶の量が異なった原因が温度であることに収束できるよう、意図的な指名により、考察の根拠を交流する。〈手立て①〉

グラフを読むときの視点を確認してからグラフを読ませる

○溶解度のグラフには、多くの情報が記録されているため、闇雲にグラフを見させても読み取ってほしい情報が取り出せない生徒がいる。そこで「グラフのどこを見るのか」、「どのように見るのか」を問い掛け、グラフを見る視点を共有し、グラフから必要な情報を読み取れるようにする。〈手立て①〉

T：それでは、OHCを使ってみんなに自分の考えを説明してください。

S：赤いグラフの60℃のところを見ると110g溶けることがわかります。20℃のときは30g溶けることがわかります。同様に40℃のところを見ると60g溶けることから、この溶解度の差が結晶となって出てくると思います。

S：硝酸カリウム水溶液は、60℃のときはこれだけ溶けます。20℃のときはこれだけ溶けるから、この部分（溶解度の差）は水に溶けていられないので、再結晶になって出てきたと思います。

T：友達に説明したり友達の説明を聞いたりして、自分の考察の自信の度合いは変化しましたか？今の時点での自分の考察の自信の度合いを黒板に示してください。

～ 黒板にネームカードを貼る ～

T：全体的に上がっているね。〇〇君はどうして5に上がったの？

S：友達の意見を聞いて、自分の意見とほぼ同じだからこれでいいんだと思えたからです。



OHCを活用する

○OHCを使うと、実験の結果（実物）や生徒のノート、写真等を手軽にクラス全体で共有することができる。

グラフのどこを、どのように見て考えたのかを発表する

○溶解度のグラフのどこを、どのように見たのかを生徒に説明させることで、温度による溶解度の差が再結晶の量の差になることに気付くようにする。

考察を交流した後に自分の考察の自信度を聞く

○授業のはじめと終わりに、自分の考察の自信度を聞くことで、1時間の中で溶解度の理解の深さが変容したことを実感させる。（手立て②）

～理解の深さの変容の例～

交流前→温度が原因だろう。
交流後→温度が変化することで溶解度が変わり、溶解度の差が再結晶の量の差になっている。

本時のまとめは、一度は生徒にまかせる

○本時のまとめは、教師がまとめたりせず、本時の課題の文の解になるように、一度は生徒にまかせ、修正が必要であれば、個別に対応する。

4. 課題に対する結論をまとめる。

○本時の課題に対してわかったことを自分の言葉でまとめさせる。

〈まとめの例〉

- ・結晶の量が異なったのは、硝酸カリウム水溶液は、温度によって溶解度が大きく変化するから。
- ・溶質の質量が溶解度を上回ると、その差分は、水に溶けていられず結晶として析出するから。



授業研究会のまとめ

【授業研究会での意見】

〈よかった点〉

- ・事前に生徒の考察を教師が把握しているので、意図的な指名がうまくできていた。
- ・ネームカードにより生徒全員を授業に参加させることができていた。
- ・自信度を問うことは、曖昧な理解ではないかを自分に問うことになるため有効である。また他教科にも応用できると感じた。

〈改善点〉

- ・現象と溶解度の変化について理解しやすくするために、写真とグラフを関連付けて示した方が良かった。
- ・科学的な考察にするために、水溶液の温度の違いを明らかにして考察させるべきであった。
- ・自己評価が甘い生徒や厳しい生徒がいるので、自信度を問う時には具体的な基準を示す方がよい。

【参加者の声】（アンケートより）

- ・問題意識の持たせ方が、とても勉強になりました。中学校でも先生の意図的な提示により問題意識をもたせることができることがわかりました。
- ・生徒の考えを中心に授業を進めているのが、とても参考になりました。自分に足りないものがわかった気がします。子どもの意見をどう出させ、取り上げ、生かすか、自分も授業の中で考えてみたいです。
- ・意見を分類し整理したり、自分の考察の自信度を5段階で自己評価したりするためにネームプレートを使っていたのは、とても参考になりました。早速自分も授業の中で使ってみみたいです。



実践事例【音楽】 音の高さやつながり方に気を付けて旋律をつくる授業

第1学年 題材名：『決まったリズムを使って旋律をつくろう』（A表現・創作）

【本時について】

〈ねらい〉

自分のイメージと照らし合わせ、決まったリズムを用いて試行錯誤しながら旋律を創作する活動を通して、音の高さやつながり方に気を付けて、簡単な旋律を考える力を伸ばす。



〈伸ばしたい資質・能力〉

- ・自分がつくった旋律を記譜する技能
- ・自分のイメージに合わせて旋律を考える力
- ・音の高さやつながり方に気を付けて簡単な旋律を考える力



〈そのために取り入れた手立て〉

①自分のイメージと音の高さやつながり方とをかがわせながら旋律を考えさせる工夫

- ・本時のねらいをつかむ場面で、第3フレーズをどのような旋律にしたいかというイメージを明確にさせたり、創作の見通しを考えさせたりする。
- ・旋律の他にイメージや工夫点を記入できる作曲シートを配付する。
- ・ミニキーボードを常時使えるようにしておき、生徒が自分で創作した旋律を確認できるようにする。
- ・表現を試行したり、聴き合ったりする場を設定する。

②自分のイメージを表現するために必要な技能を身に付けさせる工夫

- ・生徒の創作の様子をとらえて適宜表現の技能について助言する。
- ・常時活動として「リズムゲーム」を毎時間行い、4分の4拍子の基本的なリズムや記譜の仕方に慣れさせる。

題材の目標

自分のイメージをもち、音の高さやつながり方に気を付けながら、試行錯誤して旋律を創作する活動を通して、簡単な旋律をつくる能力を育てる。



指導計画（全3時間）「指導プラン」P95

過程	時間	主な学習活動
第一次	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ○「主人は冷たい土の中に」の歌詞唱と階名唱をする。 ○3、7、15小節目を教師と共に全体で創作する。 ○第3フレーズのイメージをもつ。
第二次	第2時	<ul style="list-style-type: none"> ○「主人は冷たい土の中に」のリズムをそのまま用いて、試行錯誤しながら自分のイメージに合わせて第3フレーズを創作する。 ○創作した旋律を発表し合う。【本時】
第三次	第3時	<ul style="list-style-type: none"> ○個人でつくった旋律を基に、グループで旋律をつくる。 ○グループごとに発表する。

音楽的な特徴を感じ取らせる

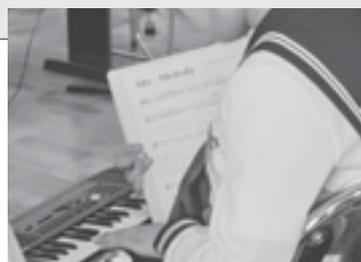
- 旋律の動きに気を付けながら曲を聴かせたり、ポイントを絞って創作の試行をさせたりして、曲の音楽的な特徴を感じ取らせ、創作する旋律のイメージをもたせる。

音楽的な特徴に気を付けて表現させる

- 自分のイメージに合わせてながら、音の高さやつながり方に気を付けて創作させる。

表現のよさを実感させる

- 個人からグループでの創作に発展させることで、それぞれの旋律のよさや面白さなどを共有させる。



本時の流れ

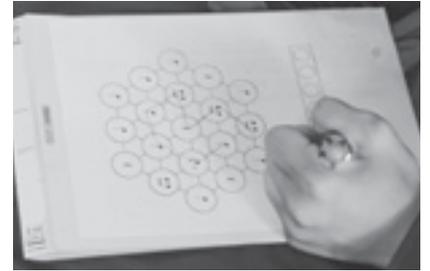
1. リズムゲームで、楽譜の記入とリズム打ちをする。

- 活動が単調にならないように休符が多く含まれているワークシートを提示する。
- T：最初は口で言ってみましょう。
- S：タン・ンタ・タン・ウン…
- T：次に、音符は手拍子、休符は足踏みをしましょう。



常時活動で技能を伸ばす

- 記譜の技能などは短時間で伸ばせるものではないので、常時活動で記譜などに慣れさせておくようにする。 <手立て②>



2. 本時のねらいをつかむ。

- 旋律のイメージと音の高さやつながり方の関連を、前時の活動から確認させる。
- T：『明るくても少し暗く』のイメージの○○さんはどのような工夫を書いたと思いますか。
- S：最初は音を高くして、途中から音を低くすると書いたと思います。
- T：楽譜上では、どうしたらイメージを表せようでしょうか？
- S：音の高さを変えたり、前後のつながり方を工夫すると、表せるのではないかなと思います。



本時のねらいをつかませる

- イメージを表すための工夫を予想させるなど、音楽活動を進めていく見通しについて共通理解を図る。 <手立て①>

【ねらい】 音の高さやつながり方に気を付けて、第3フレーズのイメージに合う旋律をつくって発表しよう。

3. 第3フレーズを創作する。

- イメージが似ている生徒同士でグループをつくるとともに、創作した旋律について助言し合うよう促し、互いに学び合っ創作が行えるようにする。



配付した作曲シートの一部



音楽活動のねらいを明確にする

- 創作では、何を工夫するのははっきりさせて音楽活動に取り組ませることが大切である。
- 本時では、作曲シートで次のような工夫をした。
- ①イメージと工夫点を書き込めるようにした。
- ②音の高さやつながり方を工夫することが明確になるよう、基本のリズムを示した。 <手立て①>

- T：暗い感じにしたいなら、どんな音を使うとよさそうかな？
- S：低い音を使うといいかな。最後のところを弾いてみよう。



- T：できた人はリズムの制限なしでつくっていいですよ。
- T：…創作が進まない生徒に対して…ラー、ソー、ファー、ミー、次はどうするかな。これをあげるね。(音階を示したヒントカードを渡す)

学習状況をよく見て支援する

- 各グループを回って個に応じた助言をするとともに、学習状況に応じて課題を与えられるようにしておく。 <手立て②>

4. 創作した旋律を発表し合う。

○作品を紹介する際には、イメージと工夫したポイントを発表するように促し、鑑賞者の聴く観点にできるようにする。

T : 自分のつくった旋律を聴いてもらいたいと思う人はいますか？

S 1 : 明るい感じから暗い感じにしたいと思いました。

そのために、前半と後半の音の高さに差をつけました。

・生徒の作品を教師が演奏する。

T : どんな感想をもちましたか？

S 2 : 最後は音が下がっていて暗い感じになっていました。

T : 他の人の旋律はどうか？

S 3 : 私をつくった旋律は…。 …以下略…

T : 参考になったことを作曲シートにメモしましょう。



音楽的な感受の学習を 充実する

○感じ取らせたい旋律のよさや面白さを、生徒が互いに感じ取れるようにする。 **〈手立て①〉**



5. 本時の学習のまとめをする。

○本時の学習で気を付けたことや創作活動の成果について発表させ、本時で気付いたことや学んだことをまとめられるようにする。

T : 今日は、どのようなことに気を付けながら曲をつくりましたか？

S : 低い音からだんだん高くして行って、また低くして、なるべく落ち着いた感じを出すことに気を付けました。

T : 創作を初めてやってみて、どんな感想をもちましたか？

S : 少し難しかったけれど、楽しかったです。

T : 3年生になったら丸々一曲作ってみませんか。次の時間は作った曲を持ち寄って、グループの曲はこれだ！というものを考えていきましょう。



学習を振り返らせる

○本時の音楽活動を通して何を学んだのか確認できるようにする。また、次の授業への期待をもたせる。

生徒の作品の一部



どんな感じにしたい？ おうついた感じにしたい。

工夫点 低い音からだんだん高くして行って最後は音に下る。

授業研究会のまとめ

【授業研究会での意見】

〈よかった点〉

- ・ワークシートは非常によく練り上げられていて、生徒の作曲への負担を減らす工夫がよく反映されていた。
- ・リズムゲームを常時継続することは、記譜に対する抵抗感をなくすことに役立っていたと思う。
- ・伸ばしたい能力について、生徒のイメージを音楽の言葉に置き換えて進めているのがよかった。

〈改善点〉

- ・作曲では部分だけでなく曲全体のイメージも必要ではないか。つながり、盛り上がりをとらえるには、全体と部分の両方の視点が必要である。
- ・自分のイメージを表すための手段や方法がしっかり分かった上で取り組ませることで、生徒の意欲も高められたのではないか。

【参加者の声】(アンケートより)

- ・取扱いが難しいと思っていた創作活動の大きな可能性を見付けた気がする。
- ・創作に対して、生徒が取り組みやすい段階や手立てがなされていて参考になった。
- ・常時活動のリズムゲームで記譜につなげていることを本校でも取り入れたい。



実践事例【美術】 材料の質感や特性を生かして構想する授業

第2学年 題材名：『ふくらむ形 ～思い輝く心の缶詰～』（彫刻）

【本時について】

〈ねらい〉

アイデアスケッチを基に柔らかいアルミニウム板での試行活動を通して、自己の主題を半立体で表現するための構想を練る力を高める。



〈伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力〉

- ・材料の質感や特性を生かして、主題を美しく表現する構想を練る力

【指導プラン】P47

- ・重なりや浮き出しの高低などで、立体感や奥行きの変化を感じる半立体表現のよさの理解
- ・アルミニウム板を鉄筆などの道具で押し出すことで、意図した形にふくらませる技能



〈そのために取り入れた手立て〉

①立体感や奥行きを感じさせる表現と感じさせない表現の比較鑑賞

- ・立体感や奥行きを感じさせる作例と感じさせない作例を、ふくらませ方と輝き方の二つの視点で比較鑑賞させる。

②本制作の素材より、加工しやすい柔らかい素材による試行活動

- ・アイデアスケッチを基に、本制作より薄く、加工しやすいアルミニウム板で半立体表現を試し、半立体表現のよさを生かした表現になるように本制作のアイデアをまとめさせる。

題材の目標

心の世界に関心をもって、自己の内面にある大切な思いを、アルミニウム板を浮き出させた半立体の組み合わせで表現するための構想を練り、造形的な効果を生かして、創造的に表現できるようにする。

指導計画（全7時間） 【指導プラン】P99・100

過程	時間	主な学習活動
出会う	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ○参考作品を鑑賞し、よさや美しさに気付く。 ○アルミ皿底面を材料に、鉄筆などの道具を押しあて、様々な形の浮き出しを試す。
広げる	第2時 ・ 第3時	<ul style="list-style-type: none"> ○主題を考え、イメージした絵柄を組み合わせ、作品のアイデアスケッチを描く。 ○立体感や奥行きを感じさせる表現と感じさせない表現を比較鑑賞する。【本時】 ○理解した表現方法を生かし、薄いアルミニウム板に自分の図案を試す。【本時】
つくる	第4時 第5時 第6時	<ul style="list-style-type: none"> ○図案を転写し、鉄筆でなぞり、線表現する。 ○裏面を押し出し、ふくらみを表現する。
振り返る	第7時	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞会を行い、主題と表現の工夫について互いのよさや美しさを感じ取る。

主題を明確にさせる

- 教師の思いや願いを込めた題材名を提示するとともに、言葉や文章、スケッチで自分の心の中を見つめ、イメージを膨らませながら主題づくりを行う。

効果的な試行活動を設定する

- 思いや願いを膨らませて主題づくりに生かす試行活動、材料の特性を構想に生かす試行活動など、題材に応じて試行活動の設定を工夫していく。

主題とのかかわりから鑑賞する

- 表現意図と形の組み合わせや配置（配色）とのかかわりを視点として、説明したり話し合ったりする活動を充実させていく。

本時の流れ

1. 本時の課題をつかむ。

○画像や動画で活動を振り返り、本時の学習課題を設定させる。



本時の学習意欲を高める

○これまでの活動がわかる画像や動画を提示し、意欲的な取組や表現の工夫を賞賛する。

【本時の課題】 自分の思いが美しく輝くように、形のふくらませ方を追求しよう！

○同じ図案でふくらませ方を変えた作例を比較鑑賞し、重なりや浮き出しの高低などで、立体感や奥行きを感じが変わる半立体表現のよさを感じ取らせる。

T: どのふくらませ方がいいかな、そう感じた理由も言ってください。



T: 表面の違いや2つのふくらませ方についても比べてみよう。

S: 表面に輝きがあると、力強さを感じる。

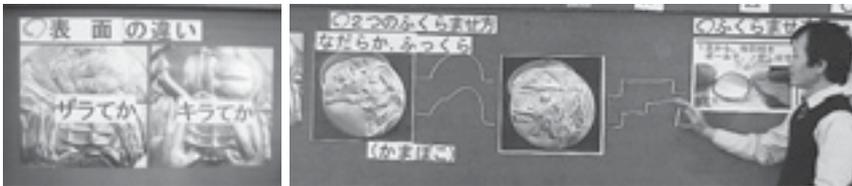
S: 高くふくらませると形ははっきりして、近くにあるように感じる。

S: なだらかにふくらませる表現と平らにふくらませる表現のどちらが自分の図案に合うのか試してみよう。

T: どのふくらませ方が自分の思いに合うかな。

視点を決めて比較鑑賞させる

○主体的な気付きから、よさや美しさを理解できるように、同様な表現方法でもイメージの違いが表れるものを鑑賞対象として取り上げ、どのような視点で比べればよいのかを明確にしてから比較鑑賞させる。
〈手立て①〉



制作の見通しをもたせる

○制作の手順や道具の安全な使い方など、全員で共通認識を図る必要がある場合は、言葉だけでなく、重要な部分を画像や動画にまとめた資料を活用し、短時間で効率的にコツや留意点を伝えられるようにしておく。

○画像や動画でふくらませ方の手順とポイントを確認させる。

T: 絶えず表面から、ふくらみ方と輝きの様子確かめながら試してみよう。



○今日の各自の目標を制作カードに記入させる。

S: ふくらみの高低や重なりを工夫して、より立体感や奥行きのある作品にしてみよう。

S: 自分の主題が美しく輝くようにふくらませ方を工夫しよう。

本時の各自の課題を確認させる

○題材の流れを示した計画表を用意しておき、毎時間の個人の課題を言葉で書かせて意識を高める。

2. 制作に取り組む。

○アイデアスケッチを基に、本制作より薄いアルミニウム板への試行活動を通して、半立体表現のよさを生かした表現になるようにアイデアをまとめさせる。

S: ふくらませていくと図案に立体感が生まれ面白い。

S: 描いた図案にそってアルミ板をふくらませるとそこに新たな輝きが生まれ楽しい。



材料の特性を構想に生かす 試行活動を設定する

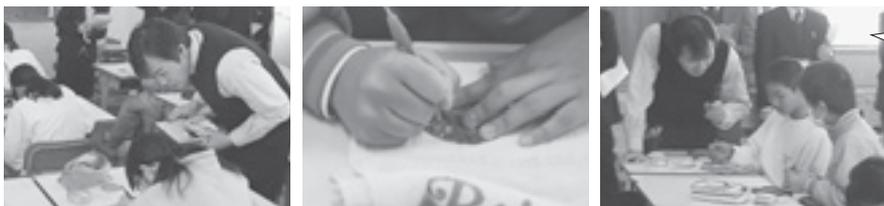
○生徒が考えたアイデアを形(色)に表していくときに、材料の特性を踏まえ、見通しをもちながら、表現の可能性を追求していけるように短時間で効果的な試行ができる活動を設定していく。
〈手立て②〉

○ふくらませ方や表現方法に工夫のある生徒の作例を全体に提示し、他者のアイデアのよさを共有させる。



T：なかなかいいですね。この後はどうやっていこうと考えているのかな。

S：ふくらみが単純に感じて物足りないので、もう少し新たな形を加えてみようと思います。



3. 本時のまとめをする

○本時における学習状況、練り上げたアイデアを振り返り、次時の活動内容や課題を確認させる。

T：制作カードに「よくできたこと、身に付けたこと」「本番で気を付けること、工夫すること」を記入しましょう。

S：自分の主題が美しく輝くように考えた構想を基に、少しずつ膨らませていこう。



ICTを活用して 互いのよさを共有させる

○制作の手を止めさせることなく効率よく提示できるように、机間指導しながら、追求に深まりがある生徒の作品（制作の過程）をデジタルカメラで撮影し、大型テレビに映して全体に紹介する。

個別指導で 課題やつまずきを明確にさせる

○形（色）、イメージについて賞賛したり思いを深めたりする言葉掛けをしながら、一人一人の追求の様子を見て回り、課題やつまずきを明確にして、生徒自身が解決できるようにしていく。

振り返りを言葉で書かせる

○ワークシートに、本時の学習の成果、次時の課題を記述させることで、考え方や作品の変化を自覚させる。振り返る際には、視点を明確にしていくようにする。

授業研究会のまとめ

【授業研究会での意見】

〈よかった点〉

- ・本番よりも柔らかいアルミ板を用いることで、生徒が材料の特性を実感しながら、短時間で効果的な試行活動を行うことができていた。
- ・制作手順の確認や作品紹介などでICTを効果的に活用し、生徒の理解を深めることができていた。

〈改善点〉

- ・比較鑑賞で半立体表現のよさをとらえさせるための視点を明確にすることで、より構想に生かすことができるだろう。
- ・生徒同士の意見交流により、鑑賞を深める場面が設定されていてもよかった。



【参加者の声】（アンケートより）

- ・同じ金属を扱う題材でも、試行活動を取り入れるなどの指導の工夫で、生徒の意欲や制作に対する考え方が変わってくると感じた。
- ・意見交流も大切だが、個の制作時間をじっくりと確保し、集中して制作することの大切さを再認識した。
- ・美術の専門として多くのこだわり、教材研究の深さを感じた。生徒が楽しんで制作する姿を想像しながら、思いを込めて教材研究を充実させたいと思った。

実践事例【保健体育】 運動の行い方や技能ポイントを明確にしたマット運動の授業

第1学年 単元名：『器械運動「マット運動」』

【本時について】

〈ねらい〉

学習計画にそって、仲間と教え合い学び合う活動を通して、美しく滑らかな演技を行うための技能のポイントを見付けることができる。



〈伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力〉

- ・ 技の名称や行い方、技のポイントの理解
- ・ 基本的な技（回転系や巧技系）の一連の動きを滑らかに回る技能
- ・ 回転系や巧技系の技を組み合わせて演技する技能
- ・ 技の合理的な動き方のポイントを見付ける力
- ・ 個人やグループの課題に対して適切な練習方法を選択する力
- ・ 技がよりよくできるように積極的に取り組む態度

【指導プラン】 P52



〈そのために取り入れた手立て〉

①グループ演技の課題を解決するための工夫

- ・ 見通しをもって活動できるようにするために、グループ演技の課題解決活動2に向けて活動1を設定し、個人の課題の技名、技のポイント、練習方法、練習の場を付箋紙を使って明確にする。

②技能のポイントを見付けるための工夫

- ・ 活動1と活動2でそれぞれの課題に対する学び合い活動（ボディ・グループ）を行い、場の設定の工夫、動画や技のポイントの掲示物などの学習資料の活用を通して、自分に合った技能のポイントを見付けることができるようにする。

単元の目標

- (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。
・ マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかにして、それらを組み合わせることができるようにする。【技能】
- (2) マット運動に積極的に取り組むとともに、分担した役割を果たそうとすることができるようにする。【関心・意欲・態度】
- (3) マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方を理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。【知識、思考・判断】

指導計画（全10時間） 【指導プラン】 P104

過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	○学習の見通しをもち、技の分類について知る。 ○補強補助運動の行い方を知る。
追求する 1	第2時	○前転と開脚前転のポイントを確認して練習を行う。 ○試しのシンクロマットを行う。
	第3時	○後転と開脚後転のポイントを確認して練習を行う。 ○倒立の予備運動を行う。
	第4時	○倒立と側方倒立回転のポイントを確認して練習を行う。
	第5時	○倒立前転のポイントを確認して練習を行う。 ○試しのシンクロマットを行う。
追求する 2	第6時	○グループで技の構成を決め、課題を見付ける。 ○学習計画とめあてを考える。
	第7時	○個人とグループの課題を解決するための練習を行う。 ○課題の見直しを行う。
	第8時	○個人とグループの課題を解決するための練習を行う。 【本時】
まとめる	第9時	○演技練習を行う。 ○グループ練習を行う。
	第10時	○リハーサルと発表会を行う。

オリエンテーション

- 授業のマナーを確認する。
- 単元の目標を確認する。
- 試しの活動を行い、個人の課題を明確にする

基本的な技能の練習

- 基本的な技を習得するために、モジュールステップでの練習を取り入れる。
- 技能を習得するために必要な練習の場を設ける

発表会に向け、個人やグループでの練習

- 学び合いを充実させる。
- 個人やグループでの課題を主体的に解決させるために、掲示物やICT機器等の補助学習資料を充実させる。
- いろいろな技に対応できるように練習の場を多く設ける。

学習のまとめ（発表会）

- グループ同士でアドバイスをし合い、よりよい演技に向けて練習を行う。
- 仲間のよい演技を認め合う。

本時の流れ

1. 各グループで準備運動をする。

○ランニングや体操を行った後、マットを使い準備運動を行う。

T：けがをしないために、しっかりと準備運動を行いましょう。各グループ協力して行いましょう。



主運動につながる準備運動を行う

○授業のはじめに補助運動としてマット運動の動きを取り入れながら行う。

2. 本時の学習課題を確認する。

○全体及びグループで授業の流れやめあてを確認する。(グループ・個人)

T：技のポイントを見付けるために何を参考にしたらいかな？
S：アイテム(工夫した練習道具)を使う。掲示されている資料を見る。
T：友達にアドバイスできるといいね。



本時の流れを確認する

○前時からの流れと本時の内容を視覚的に確認できるよう工夫する。(単元の進め方、本時の流れ、めあてを提示)
『活動1』個人課題
『活動2』グループ課題

【めあて】美しく滑らかな演技を行うための技能のポイントを考えよう。



S1：今日の個人とグループのめあての確認をしましょう。
S2：手のひらをしっかりとついて…。
S3：アイテムを使って側転の練習に取り組む。

【個人のめあて】



【グループのめあて】

練習する技とその技のポイント、その解決方法



めあての確認をし、見通しをもつ

○各グループでホワイトボードを活用し、付箋紙に個人・グループのめあてを貼り、みんなで確認ができるように工夫する。〈手立て①〉

3. 課題を追求する。(活動1)

○個人の課題解決に向けて、各技の技能のポイントを見付け、練習に取り組む。

T：技のポイントをアドバイスし合ってね。
S：後転の練習で回転力が上がるようにスロープを作り練習に取り組んだらできるようになりました。
S：アイテムを活用して練習したら側方倒立回転の手の付き方がしっかりできるようになりました。



個人の課題を追求する

○グループでの演技を見据えて、個人の技能が向上するよう練習を行う。グループの中で同じ練習を行う小グループを作り、互いに動きを見てアドバイスをし合う。(学び合い活動)

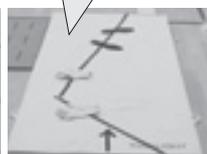


動画で確認だ (ICT機器を使用して)

掲示物の活用 (技のポイント拡大)

ポケットにはアイテムが入っています。(靴の中敷き・軍手)

練習の場の工夫 (アイテム使用)



練習仕方を工夫する

○各個人で課題解決できるよう練習の場や用具の工夫を行う。
・ICT機器の活用
・掲示物の活用
・練習の場の工夫 (アイテムの活用等)

〈手立て②〉

4. 課題を追求する。(活動2)

○グループの課題解決に向けて、各技の技能のポイントを見付け、練習に取り組む。

【シンクロマットの演技に向けてグループで練習する】



演技構成図で確認しながらグループで活動する。

【シンクロマットの演技に向けて各個人の技能を高める】

個人の技能向上に向けてグループで練習(学び合い活動)



グループの課題を追求する

- 練習の場を工夫する。
 - ・グループ演技ができるようロングマットを敷き詰め、練習スペースを確保する。
 - ・個人の課題にも対応できるように多様な練習の場を設ける。

〈手立て②〉

5. まとめ

○学習カードに授業の振り返りを記入する。



S：坂道マットで開脚前転をしたらできた。

S：直前で脚を一気に開くポイントを見付けた。

S：伸膝前転も技のポイントを教えてもらったので、もう少しできそう。



T：友達同士で教え合いがしっかりできていました。次回は、シンクロマットの演技を中心にやっていきます。個人の練習をシンクロの演技につなげていきましょう。



学習の振り返りを行う

- 振り返りをワークシートにまとめる。(付箋紙を活用)
- 本時のめあてに対する振り返りができるようワークシートを工夫する。(練習した技とその技のポイントがわかったかを重点としてワークシートを作成)

(次時への意欲付けになるよう本時のまとめを行う)

授業研究会のまとめ

【授業研究会での意見】

〈よかった点〉

- ・個人ではわからないことでも、グループ活動を取り入れたことにより、アドバイスをし合い、学び合いができていた。
- ・生徒の苦手意識を克服するためにシンクロマットを取り入れたことは、生徒の意欲を向上させ効果的であった。
- ・アイテムや技のポイントの資料が工夫されていた。また、個人やグループの課題を付箋紙に記入しホワイトボードに貼り付けグループ全員で確認できるよう工夫がされていた。



〈改善点〉

- ・技の完成度として高めていく必要がある。能力別グループで活動させてもよかったのではないかな。
- ・パソコンでよい動きと自分の動きをタブレットなどを活用して比べられる工夫をするとよいだろう。

【参加者の声】(アンケートより)

- ・今回の提案であるシンクロマットは、個人種目である器械運動を個人の連続技の発表を集団として仲間と協力し合う形で取り入れていることは、とてもよいと思った。アイテム、付箋の活用方法、パディを取り入れてみようと思った。
- ・様々な場の設定や掲示物等とても参考になった。教師の頑張りで、生徒が大きく変容することを改めて実感した。



実践事例【技術分野】 正確な接合に関する知識を身に付ける授業

第1学年 題材名：『ペンスタンドをつくらう』（導入題材）

【本時について】

〈ねらい〉

試しの場として端材を利用した接合体験と、グループでの話し合いを通して、接合のコツを見いださせ、正確な接合方法がわかることができるようにする。

〈伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力〉

- ・ げんのうの使用方法に関する知識
- ・ 正確に接合するためのコツに関わる知識

【プラン】P113、「分析資料」課題2



〈そのために取り入れた手立て〉

①試しの場の設定

- ・ 自分が試すだけでなく、友達の作業の様子を観察させることで、板がずれる、くぎが曲がるなどの原因に気付くことができるようにする。

②接合のコツを見いだすための工夫

- ・ 自分の体験と友達の体験の観察を通して個人の考えをもたせ、グループで話し合わせることで、接合のコツを見いだすことができるようにする。
- ・ 自分の考えやグループの考えをわかりやすくまとめるためのワークシートを準備する。
- ・ 予想される失敗接合例の提示教材を準備する。



題材の目標

ペンスタンドの製作を通して、製作や工具の使用方法に関心を持ち、材料の特徴を知り、製作品の正確な加工、接合を考えて製作できるようにする。

指導計画（全9時間） 【プラン】P114

過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ○ペンスタンドの完成品を見て、製作への関心・意欲をもつ。 ○材料の特徴や加工方法について知り、製作の見通しをもつ。
追究する	第2時 ～ 第9時	<ul style="list-style-type: none"> ○さしがねを利用して製作図面を基に、けがきを行う。 ○教科書と示範から、のこぎりの正しい使用方法を知る。 正しい使用方法で切断作業をする。※ ○教科書と示範から、木工やすりの正しい使用方法を知る。 正しい使用方法で切削作業する。※ ○板の厚みや強度面を考慮てくぎ打ちの場所を理解する。 教科書と示範から四つ目ぎりの正しい使用方法を知る。 正しい使用方法で穴あけ作業をする。※ ○教科書と示範から、げんのうの使用方法を知る。 ○正しい使用方法で接合作業をする。 ○紙やすりを使用して仕上げる。
		<p>〈切断・切削・下穴あけ・接合の学習場面（上記※の学習の前）において〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○端材などを利用した「試しの場」と、班での話し合いを基に、各作業のコツを見いだす。（本時7時間目）

導入題材を取り入れる

- 本題材の前に導入題材を設定し、材料の特徴を理解させたり、工具に関する基本的な知識や加工方法を身に付けさせたりして、それらの知識や技能を本題材で活用できるようにする。

「つかむ」過程を大切に

- 具体物やデジタル教材を提示するなど、感動のある導入を工夫する。

試しの場や製作のコツを見付け出す場面を設定する

- 各工程において、試しの場や製作のコツを見付け出す話し合いなどを意図的に設定する。

本時の流れ

1. 本時の課題を把握する。

T：今日は、いよいよ板と板を接合します。接合のコツを見付けて、板と板を正確に接合できるようにしましょう。



【めあて】 正確に組み立てるために、接合のコツを見つけだそう。

本時の課題を把握する
 ○本時の学習内容が、次の時間の作業にどのように活用できるのかを確認する。

2. 試しの場として、端材を接合する。

○げんのうの打つ面を確認する。
 T：げんのうはくぎをどの面で打ちますか。
 S：はじめは平らな面で、終わりは曲面です。



○端材の接合例を見ることで、完成のイメージをもつ（プロジェクタ利用）。

○班の半分の生徒が作業を行い、残りの生徒は作業を観察し、正しい接合方法を見付ける。



○ワークシートに観察から気付いたことや、自分の体験からうまくいかなかったことなどを記入する。

S：自分は打つことに夢中になってしまって、板がずれてしまっていた。
 S：友達はくぎが板からはみ出てしまった。

「試しの場」を意図的に設定する
 ○製作に必要な工程について、意図的に試しの場を設定することで、作業のコツをつかませる。また、友達の作業の観察から、接合方法のコツを見付けさせる。
 〈手立て①〉

ワークシートを工夫する
 ○ワークシートでは、生徒が記入しやすいように項目の視点を示したり、余白を多くすることで学習中に生徒がメモ等をとれるようにしたりする。
 〈手立て②〉

3. グループで接合のコツを話し合う。

○実物投影機を利用して、こぐち面のずれやくぎのはみ出しなどの失敗を視覚的にわかるようにする。



○失敗を明確にすることで、どのようなコツが適切か、話し合いを深められるようにする。

- ・こば面のずれ
- ・こぐち面のずれ
- ・くぎがはみ出る
- ・ボンドがはみ出る

S：くぎを打つときに、まっすぐに打てているかどうか確認しながら打てばいいのではないかな。

S：こぐち面の高さをそろえて打てばいいのではないかな。



提示教材を工夫する
 ○実物や作業方法など、視覚的にわかるようにするために、実物投影機を効果的に利用する。
 〈手立て②〉

話し合いのポイントを整理する
 ○話し合いを深められるようにするために、何について話し合うのか、ポイントを整理する。
 〈手立て②〉

机間支援を充実する
 ○班での話し合いを充実させるために、試しの場で接合した端材を見せたり、友達の体験の観察を振り返らせたりする。
 〈手立て②〉

4. 各班の発表から接合のコツを共有し、足りない部分は教師が補足する。

- T：正確に接合するためのコツを発表しましょう。
- S：板がずれないようにするために板をしっかりと固定すればいいと思う。
- T：どんなもので固定しますか。
- S：万力を使えばいいと思う。
- T：万力以外にも「はたがね」を使うとくぎが打ちやすくなりますよ。
- T：他にはどのようなコツがありますか。
- S：くぎが曲がらないようにするために、打ち始めはくぎを指で押さえる。
- S：ボンドがはみ出たら、ぬれぞうきんですばやく拭く。
- T：こぐち面がずれないようにするための簡単なコツがありますが、どんなコツがあると思いますか。
- S：・・・
- T：接合する板に印を書いておくと、ずれが解消されます。



発表内容を一般化してまとめる

- 話し合いの後は、必ず発表を行い、情報を共有する。そして、教師が発表内容を一般化して板書していく。
〈手立て②〉

教師が補足する

- 発表されなかったコツや、生徒が考えつかないようなコツを提示教材等を利用して、わかりやすく補足する。
〈手立て②〉

5. 本時の振り返りと次時の学習の見通しをもつ。

- T：次の接合の時間では、どんなことに気を付けて作業しますか。
- S：次の時間の接合では、こぐち面がずれないように、板に印を書いてからくぎを打とうと思う。
- S：私は、端材を接合したときに、こば面がずれてしまったので、次の時間では、万力を利用して板をしっかりと固定してくぎを打とうと思う。
- T：今回の授業が次の接合に生かせるといいですね。今回は正確な接合を目指してがんばっていきましょう。



今後の学習の見通しをもたせる

- 本時での学びを次時に生かすために、とくに自分が取り組みたいことを明確にもたせる。

授業研究会のまとめ

【授業研究会での意見】

〈よかった点〉

- ・導入での試しの中で、失敗体験をさせたことは、接合のコツを見いだすことに結び付いた。
- ・自分だけの体験ではなく、友達の体験を観察させたことがよかった。
- ・話し合いの場面で、自分の考えをもたせてから話し合わせたことがよかった。

〈改善点〉

- ・試しの中で、友達の作業を観察させるときのポイントを明確にする必要がある。
- ・試しをすべての工程で取り入れることは難しいので、効果的な場面に設定する必要がある。
- ・生徒の考えを更に引き出す工夫を図るとよい。

【参加者の声】(アンケートより)

- ・生徒が失敗を認めてもらえる機会はなかなかないと思う。失敗をすることで、自ら気づき学ぶことができると感じた。
- ・組立における試しの際は、設定する必要があると感じた。
- ・話し合いでは、明確な視点をもつことを大切にしていきたい。



実践事例【家庭分野】 まつり縫いの習得に結び付ける授業

第1学年 題材名：『自分らしく快適な衣生活のために』

【本時について】

〈ねらい〉

まつり縫いの特徴や縫い方を考えさせ、まつり縫いによる裾上げの方法を身に付けさせる。

〈伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力〉

- ・手縫いの基礎（玉結び、玉どめ、なみ縫い）の技術
- ・まつり縫いの特徴や縫い方の理解
- ・まつり縫いによる裾上げを行う技術

【指導プラン】P56



〈そのために取り入れた手立て〉

①まつり縫いの特徴や縫い方のコツを見出す活動の工夫

- ・まつり縫いとなみ縫いを比較する活動
- ・各自のコツの共有とそれを試す場の設定

②一人一人の技能の差に応じた支援の工夫

- ・見本（実物、実物大のカラーコピー）の準備
- ・各班1台のタブレットPC（示範動画を収めたもの）の配布
- ・各班1名のゲストティーチャーの配置



題材の目標

衣服の役割や選択について話し合ったり、衣服の手入れを実習したりする学習を通して、衣服の機能や着用、手入れについての知識や技術を習得し、日常生活で生かそうとする態度を養う。

指導計画（全11時間） 【指導プラン】P109

過程	時間	主な学習活動
見つめる・つかむ	家庭	○家庭における衣生活の取組（「どんな仕事を」「誰が」）を調べる。
	第1時	○家庭での衣生活への取組の様子を基に話し合い、題材の学習課題をつかむ。「快適な衣生活を送るために、必要なことができるようにしよう。」 ○衣服の社会生活上の機能を知り、目的に応じた着方について考える。
追究する	第2～10時	○目的に合わせた衣服を選び、自分らしい着方を工夫する。 ○浴衣の着付けを体験する。 ○既製服の購入場面を想定し、購入する際に留意することを考える。 ○衣服素材に適した手入れの必要性を理解する。 ○取扱説明表示を参考にして、洗濯機を使った洗濯の仕方を考える。 ○衣服の状態に合わせた方法で補修ができる。 ・「まつり縫い」【本時】 ・「スナップ付け」 ・「ほころび直し」
	第11時	○環境に配慮した衣生活に関心をもち、実生活でできることを考える。
生かす	家庭	○各自の生活の中で学習したことを実践する。

生活と結び付けた学習を展開する

- 導入では調査や聞き取り、終末では実践の機会を設定するなど、生活と結び付ける工夫をする。

題材を貫く課題を設定する

- 事前に家庭生活を振り返らせ、結果を基に課題をつかませる。

手入れや処分、計画・点検などは、ほとんど家族にやってもらっていたんだわ。

衣生活で自立できるように、手入れなどについて学習しよう。

繰り返し練習できる場面を設定する

- 授業の導入や家庭学習を利用して、反復練習をする機会を意図的に設定する。

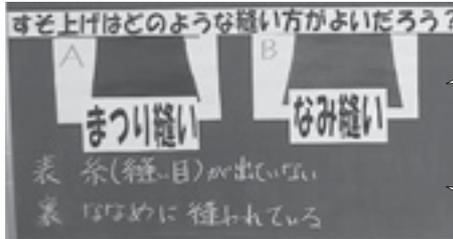
〈手入れの学習場面において（第6～10時）〉

- 手縫いの技術の定着を図るために、針と糸を使った基礎的な技能について、短時間の運針練習を授業の導入で取り入れる。（玉結び、玉どめ、なみ縫い など）

本時の流れ

1. 本時の課題をつかむ。

- 運針の練習をする。
T：集まった人から順に、運針練習を始めましょう。
- S：この前より速く縫えるようになったよ。
- スカートやズボンの裾を観察し、なみ縫いと比べることで、まつり縫いの特徴を見付ける。
制服のズボン



【めあて】「まつり縫い」のポイントを理解して、衣服の裾上げに挑戦し、コツをつかもう。

2. まつり縫いによる裾上げに取り組む。

- T：まず見本を観察してやり方を考えてみましょう。
- S：縫い目を開くと‘V’みたいになっている。それに表の方は少ししか縫っていないよ。
- S：なみ縫いは5mmだったけど、まつり縫いはどれくらいの間隔がいいのかな？
- T：まつり縫いのポイントを確認しましょう。



【まつり縫いのポイント】

- ・表に針目が目立たないように縫う。 ・0.8cm程度の間隔で縫う。
- ・玉結び、玉どめを目立たない場所にする。

○示範を見たり一緒にやったりして、やり方を理解する。

T：では、やってみましょう。
最初は先生が縫う様子をよく見てください。

S：折り山と表布を交互に縫うんだ。

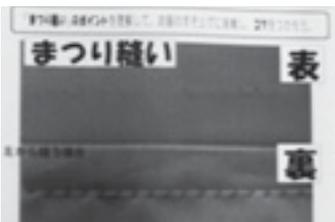
T：次は、針と糸、布を持って、先生と一緒にやってみましょう。

○各自がまつり縫いに取り組む。

T：いよいよ、まつり縫いに挑戦です。やりながら自分なりのコツをつかんでみましょう。

もう一度やり方を見てみよう。

ゲストティーチャーの先生と一緒にやったら自分でもできたぞ。



T：学習プリントのまつり縫いの写真は、実物大です。見本にして、よく見ながら縫ってみましょう。



授業のはじめになみ縫いの運針練習で、ウォーミングアップをしましょう。(チェック柄の活用)

実生活とのつながりをもたせる

- 実際に使われている身近なもの(制服等)を提示し、本時の学習内容がどのように活用できるのかを確認する。

ねらいにつながる実践的・体験的な学習活動を設定する

- 既習の技術(なみ縫い)と比較して、新しい技術(まつり縫い)の特徴をおさえる。 〈手立て①〉

まずは方法を考えさせる

- 初めから縫い方を教えるのではなく、まずじっくり観察して予想させることで、生活の場面で活用できるような技術としての習得を図る。 〈手立て①〉

示範を提示する

- 技術の習得には教師の示範が有効。実物投影機などを用い手元が見える工夫をしたり、ボランティアが依頼できる場合には、小グループごとにボランティアに示範してもらったりする。

技能の差に応じた支援を行う

- 実物大の見本写真を配布し、作業に見通しをもたせる。(学習プリント)
- 自力解決できるように、やり方を繰り返し確認できるものを準備する。(示範の動画を再生できるタブレットPC)
- ボランティアを依頼することで、自力解決が困難な生徒に、きめ細かな個別指導を行うことができる。 〈手立て②〉



3. 各自でコツ（気付いたこと）をまとめる。

T：まつり縫いをしてみて、コツは見付かりましたか？ やって見て気付いたことをプリントに自分の言葉で書いてみましょう。



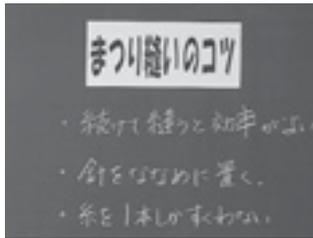
4. コツ（気付いたこと）を発表する。

○言葉だけでなく、実際に縫って見せる。

S：表の布をすくった後に、次の動作を一緒にやるようにすると速く縫えました。

S：（表の布は）糸を1本分だけすくうようなつもりで縫いました。

T：今言ってくれたことを、実際にみんなにやって見せてください。では、〇〇さんのやり方をよく見てくださいね。



○全体でコツを確認し、各自でそれぞれの方法を試してみる。

T：最後にもう一度まつり縫いをやってみて、友達のコツを試してみましょう。

S：糸を1本しかすくわないようにすると、表に目立たないね。



5. まとめと予告を聞く。



T：1時間でだいぶ上手になりましたね。次の時間の運針練習は、まつり縫いでやってみましょうね。

授業研究会のまとめ

【授業研究会での意見】

〈よかった点〉

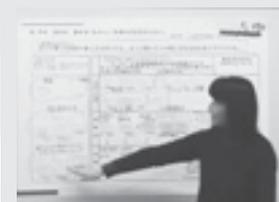
- ・ゲストティーチャーの活用やタブレットPCの準備など、個に応じた支援につながる有効な手立てが多く見られた。
- ・コツを発表することによって、気づきを共有することができた。その後、個々でもう一度行うことが習得につながっていた。

〈改善点〉

- ・ゲストティーチャーとの打ち合わせを十分に行い、支援を必要としている生徒に対し一緒にやりながら縫い方を教えるなど、生徒への支援の方法について共通理解ができるとよい。
- ・まつり縫いのポイントでは、折り山のすくい方など、提示の仕方を工夫してもよい。
- ・基本的な縫い方や布の扱い方など、常時指導や家庭との連携を図りながら定着させたい。

【参加者の声】（アンケートより）

- ・“活用のための習得”ということ、子どもたちに考えさせる授業を行うことは、とても大切なことであると実感した。
- ・考える時間と技能習得の時間を設定し、一人一人がじっくり考えられるような工夫をしていきたい。
- ・ゲストティーチャーを活用する有効性と、来ていただく場合の注意点がよくわかった。また、ICTの活用についても、技能教科に大変有効であることがわかったので、今後もっと工夫して活用したい。



一人一人の気づきを 全体で共有する

○気づきを自分の言葉でまとめる。

気付いたことに、そのお話を聞かされた時よく聞くことが出来ると思う



糸の時に糸を1本しかすくわないと糸がキレイになるね。その次の動作を一緒にやると早く縫える



○本時のまとめにつながるように、全体で確認する。

○まとめたことを各自が確認し（試し）、学習内容の定着を図る。

〈手立て①〉



実践事例【外国語】 意味のかたまりについての気づきを促す授業

第3学年 題材名：『身近な話題についてディスカッションをしよう』

【本時について】

〈ねらい〉

現在分詞の後置修飾が用いられた文の意味を理解させるとともに、現在分詞を含む名詞句の意味のかたまりに気付かせる。



〈伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力〉

- ・意味のかたまり（現在分詞の後置修飾を含む名詞句）の理解
- ・意味のかたまりで区切って音読する力



〈そのために取り入れた手立て〉

①文法についての気づき(noticing)を促す活動の工夫

- ・意味のかたまり(chunk) = 「現在分詞の後置修飾を含む名詞句」に気付かせるためのモデル文と提示方法の工夫
- ・モデル文中に名詞句を多く盛り込み、文脈や複数の英文から現在分詞の意味や用法を話し合わせるグループ活動の設定

②「振り返り」の時間に、ペアごとに初見の英文を区切って読ませるタスクの設定

題材の目標

スポーツや趣味、音楽などの身近な話題について伝え合う活動を通して、生徒一人一人が自分の意見や考えを英語で表現したり、相手の意見に対する賛否とその理由を即興で伝えたりする表現の能力を高める。

指導計画（全11時間）

「指導プラン」P117及び「第2回 ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査〈結果分析資料〉」参照

過程	時間	主な学習活動
課題をつかむ	第1時	○身近な話題について、ペアで自分の意見とその理由を一言英語で伝え合う。 ○相手の意見に一言英語で答える。
新出言語材料（現在分詞）について理解する	第2～6時	○教師のモデル文を聞き、グループで現在分詞の後置修飾を含んだ文の意味を考えたり意味のかたまり（句）で区切ったりする。【本時】 ○ペアで、写真や絵で示された人物やものについて、その動作や特徴などを取り上げて尋ね合う。 ○教科書本文をRead & Look upやShadowingなどの方法で音読する。
新出言語材料や既習表現を用いて表現する	第7～9時	○教師のモデル文から、意見や理由、例示、感想を伝える表現の働きを確認する。 ○アニメや携帯電話などいくつかの話題について英文を作成する。 ○書いた英文をグループで読み合い、友人の表現やALTの助言を参考に推敲する。 ○Read & Look upで発表できるよう、練習をする。
ディスカッションを行う	第10・11時	○原稿を推敲したグループと別のグループを編成し、グループ内で意見や考えを伝え合う。 ○聞き手はその場で、賛否とその理由について簡潔に英語で伝える。 ○自己評価を行うとともに、80語程度で再度自分の意見や考えを英語で書く。（家庭学習含む）

到達目標を基に指導計画を作成する

- 題材の学習を通して「何ができるようになるのか」を明らかにし、言語活動を題材の中核に設定する。（※「題材構成のポイント」参照）

中核となる言語活動（ディスカッション）に向けた練習を段階的に計画する

- ディスカッションで自分の意見をRead & Look upで言わせるために、教科書の音読も同じ方法で行う。

復習中心の家庭学習を設定する

- 授業で行った言語活動の復習を家庭学習で行わせ、次時の導入で取り上げるなど、授業と家庭学習を連動させる。



授業で学習したことをすぐに家で復習できると効果的だね。

本時の流れ

1 モデル文の提示

○教師のモデル文を聞き、現在分詞が用いられている文の意味や現在分詞を含む名詞句に気付かせるためのグループ活動を行う。

○聞き取りのポイントをそれぞれ明示した。 **〈手立て①〉**

【1 度目】 JTE: 「誰について何と紹介しているのでしょうか。聞き取って、その後すぐにグループ内で確認しましょう。」

【2 度目】 JTE: 「どの写真のどの人物について説明しているのか、目で追えるといいね。1 度目よりも、詳しい情報を聞き取りましょう。」

○提示したモデル文（下線部が新出言語材料：現在分詞の後置修飾）

JTE: Nicholas, what are you doing?

ALT: I want to show some pictures to my family in America. I want them to know about my life here.

JTE: That's a good idea. Nicholas, who are they?

ALT: Oh, I met them in Kyoto Station. They taught me the way to Kiyomizudera. I think people in Kyoto were very kind to me.

JTE: I agree with you. When I went there, many people in Kyoto had warm hearts, "O-mo-te-na-shi."

ALT: The man sitting at the desk is my father, John. He wants to visit Japan to see the Tokyo Olympic games.

JTE: I see. Well, who is that man?

ALT: Which one?

JTE: Well, who is the man looking at the airplane?

ALT: Oh, the man looking at the airplane is Jiro Horikoshi. He designed "Zero-sen" a long time ago. He was born in Gunma.

JTE: Really? I didn't know that.

ALT: And the girl drawing a picture outside is Nahoko. She is the heroine of "Kazetachinu." The young man standing near my father is my cousin. He also likes Japanese anime very much. I think he will be interested in my pictures.

JTE: Great!

○モデル文提示の際の言い直しの工夫

JTE: Who is the man looking at the airplane?

ALT: The man looking at the airplane is Jiro Horikoshi.

JTE: I see. The man looking at the airplane is Jiro Horikoshi.

（生徒に配布されたワークシート中にはない1文。その場で教師が言い直した。）

2 個々の気づきを共有するグループ活動

○Focus on Formを取り入れ、文法事項について気付いたことやわかったことを伝え合い、教師が生徒の疑問点などを整理して補足説明を行う。

〈手順〉

「現在分詞の後置修飾を含む名詞句」をかたまりとして捉え、音読の際に、区切る位置を考えさせる。



区切りがわかったグループには、「音読してごらん。」「疑問文を作るには?」「進行形との違いは?」と教師が次のタスクを与え、ALTと各グループの支援を行う。



〈教師の説明〉

「～しているという意味を表す-ing形で名詞を詳しく説明（修飾）していますね。この-ingは現在分詞と呼びます。～している〇〇（名詞）で1つの意味のかたまりになりますから、読むときはそこで区切ります。意味のかたまりで音が区切られるのですから、聞いていてもわかりやすいはず。区切りを意識した読み方ができるようにみんなで練習しましょう。」



教師の説明を減らし、生徒が考える時間と言語活動の量を確保しましょう。



豊富なインプットと場面の工夫を基に気づきを促す

○英文が長くなることで、より自然な文脈でより豊富なインプットを可能にすることができる。「モデル文が長くても文脈や写真、教師とのインタラクションから、意味を推測しようとする」姿勢を中3までに段階的に育てていきたい。

〈手立て①〉

教師や生徒が英語でやりとりをする活動での支援を工夫する

○新出言語材料を含む英文をJTEが再度言い直すなどして、新出言語材料に注意が向くようにする(Recast)。

個別支援を「適切な順番で」「役割分担をして」行う

○活動を生徒に行わせる時は、JTEが必ず次の発展的なタスクを用意しておき、fast learnersが意欲的に学習できるようにする。その上で、きめ細かな支援を必要な生徒にじっくり時間をかけて行う。

○ALTは、発展的なタスクをやり終えた生徒のチェックや評価を行う。

教師の説明は短く端的に行う

○生徒が考えたり気付いたり表現を使ってみたりする時間を十分確保できるよう、説明の要点は授業の終わりにハンドアウトにして配布し、家庭学習でノートに整理させる等の工夫をする。

3 気付きを深めるためのペア活動（振り返りの時間の活用）

○教師自作の初見の英文中に含まれる現在分詞を含む名詞句を探し、区切りを見付ける活動に取り組む。

・8ペアに対し、5種類の英文を用意し、各ペアにタスクとして提示



〈実際の英文の例〉

The teacher using a sewing machine in front of the students is Ms. Kaburagi. She is explaining how to use the sewing machine. It is hard for me to use a sewing machine.

S：まず今日学習した現在分詞に線を引いて、確認しよう。

S：いくつも-ing形があるな…。あっ、中1の時に学習した進行形だ。えーと、名詞を詳しく説明しているのは…

教師自作の初見の英文を用いて
本時の学習の振り返りをさせる

○本時のねらいに沿ったタスクを振り返りで提示し、技能や知識の活用を図る場面を設定する。

○そのためには、生徒の身近な話題を取り上げながらも、初見の英文を用いる必要がある。既習表現を盛り込みながら生徒がチャレンジしたくなるタスクを設定したい。

〈手立て②〉

ペアで本時の学習の振り返りをさせる際の工夫

- 話題だけでなく難易度も変えた5種類の英文を、生徒の実態を考慮して意図的に配布する。
- 最初は自力で取り組みませ、次に、ペアでわかったことや疑問に思ったことを自分の言葉で表現させる。
- 知識として「区切り」や「意味のかたまり」がわかるだけでなく、実際に意味の伝わる読みができるか、ALTにチェックしてもらう。



授業研究会のまとめ

【授業研究会での意見】

〈よかった点〉

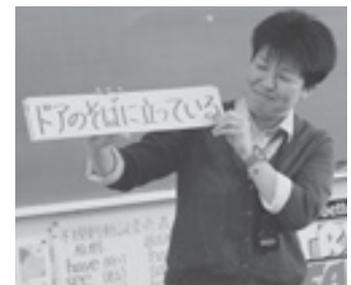
- ・モデル文での導入がとても自然で、グループによる意見交換があったので、全員が授業に参加していた。
- ・教師の文法説明を減らし、家庭学習でポイントをまとめさせる工夫がよかった。

〈改善点〉

- ・意味のかたまりを捉えさせるのは難しいので、早くからチャンクで英文を捉えさせる取組が必要だ。

【参加者の振り返り】

- ・「生徒の気付き」を基にした新出文法事項の導入の仕方を初めて拝見し、とても新鮮な驚きがありました。生徒は、気付くことで「より学びたい」という意欲をもって活動していました。
- ・inputとoutputの間にnoticingを入れること、そしてその意義を考えさせられました。



【参考】 題材構成のポイント ～到達目標の設定から題材の目標を具体化させる～

1. 年間の到達目標から題材で求める表現・理解の能力を明確にする。

○「表現の能力」の到達目標の例

自分の体験や身近な話題について、Read & Look upでスピーチを行ったり、主張と根拠、結論などを含む段落を構成してまとまりのある文章を書いたりすることができる。

相手の発話に対して、その場で関連する質問をしたり、自分の意見や感想を伝えたりして、コミュニケーションを継続することができる。

CAN-DOリスト（学年ごとの到達目標）を意識した
授業改善の取組を始めましょう



2. 題材の目標（P.28参照）を「生徒が活動で用いる英語」のレベルで具体化する。

○題材のまとめとして行う活動（ディスカッション）での話し手の英語の具体化

The anime movies made by Miyazaki Hayao have been introduced to other countries. Today they are very popular because their stories are very unique and their pictures are more beautiful than other anime movies, I think.

Also, the characters in his movies are very cute. I like “Chihiro” the best. Look at this picture. The girl talking with ghosts is Chihiro. I think she is cute and brave.

実践事例【道徳】 ねばり強く最後までやり抜こうとする意欲を育てる授業

第3学年 主題名：『最後までやり抜く心』 1 - (2) 希望・勇気・やり抜く強い意志
 資料名 ボクは新人 (学研 中学生の道徳3年 かけがえのないきみだから)

【本時について】

〈ねらい〉

やなせさんが絵を描き続けてこられた理由について話し合うことを通して、強い意志をもってねばり強く取り組んでいこうとする意欲を育てる。

〈伸ばしたい資質・能力〉

- ・自分がやろうと決めたことに対して、強い意志をもってねばり強く最後までやり抜こうとする意欲。

【指導プラン】 P69



〈そのために取り入れた手立て〉

①中心発問の工夫

- 場面ごとに主人公の心情を問う発問でなく、資料のもつテーマに関する発問「やなせさんが絵を描き続けてこられたのはなぜだろうか。」を中心発問として授業のはじめに設定し、強い意志をもって絵を描き続けるやなせさんの生き方についてじっくりと考えられるようにする。

②話し合い活動の工夫

- 話し合い活動では、〈個〉 → 〈グループ〉 → 〈全体〉と目的に応じて以下のように行う。

- 〈個〉 ・話し合いに向けて、自分の考えをしっかりとめさせるためワークシートに記述させる。
- 〈グループ〉 ・友達の感じ方や考え方に気付かせるため、各自の考えを理由も含めてグループで話し合わせる。
- 〈全体〉 ・多様な感じ方や考え方のよさに触れ、道徳的なものの見方や考え方を深め、価値の類型化・焦点化をしていくために、各グループから出された考えをクラス全体で話し合わせる。

本時の授業と指導のポイント 【指導プラン】 P120

本時の流れ

1. 本時の学習の見通しをもつ。

- 資料への興味・関心を高めるとともに、長年にわたって絵を描き続けていることを知らせ、価値への方向付けを行う。

T：これは何の曲ですか。また、そのアニメの作者はだれですか。

S1：アンパンマンの歌だ。

S2：やなせたかしさん。

T：やなせさんは何才だと思いませんか。

S3：90才ぐらい。

T：先生が子どもの頃もアンパンマンのマンガがありました。やなせさんは、長い間、絵を描き続けています。



価値への方向付けを行う

- やなせさんとアンパンマンの写真を提示し、長年にわたって絵を描き続けていることを知らせ、生徒の意識をねらいとする道徳的価値に向かわせ価値への方向付けを行う。その際、短時間で行うとよい。

2. 「ボクは新人」を読んで話し合う。

(1) 資料を読んで感じたことを発表し合う。

T：資料を読んでやなせさんのことをどう思いましたか。

S4：やなせさんはとても優しい人

S5：ずうっと新人でいたなんて、ふつうならスターになりたいと思う。

T：(やなせさんの人物年表を提示し) マンガ家となったやなせさんがアンパンマンを世に出すまで、19年かかっています。



資料のもつテーマに関する発問を設定する

- 「やなせさんが絵を描き続けてこられたのはなぜだろう。」を中心発問として授業のはじめに設定し、強い意志をもって絵を描き続けるやなせさんの生き方についてじっくりと考えられるようにする。〈手立て①〉

【課題】 やなせさんが絵を描き続けてこられたのはなぜだろう？

(2) 絵を描き続けてきた理由をワークシートに記入し、グループ、全体で話し合う。

○自分の考えを書く。



- ・自分の仕事が好きだったから。
- ・子どもたちの笑顔を見たかったから。
- ・絵を描くことが本当に好きだったから。
- ・巨匠や偉大な人になりたいという欲がなかったから。
- ・あせらず着実に努力したから。

○記述をもとに、理由も含めてグループで話し合う。



S6： やっぱり絵を描くことが好きだったから続けることができたんじゃないかな。

S7： 私もそう思う。自分もそうだけど、好きなことは少しくらいつらいことがあっても続けられると思う。

S8： ぼくは、絵を描くことで子どもたちの笑顔を見たかったからだと思うよ。子どもたちの笑顔が、やなせさんを支えていたんじゃないかな。

S9： それも大切だけど、絵を描き始めてから、常に新人という気持ちでいたからじゃないかな。初心を忘れないというか…。

S8： そういう考えもあったかもしれないね。

○グループで話し合ったことをもとに、短冊カードに記入し、クラス全体で話し合う。



T： それでは、発表してもらいます。

S6： 絵を描くことが好きだったからだと思います。

T： 同じような考えの人はいるかな。

S10： 生活の一部になっているということから本当に好きだったんじゃないかな。

S11： 生まれ変わっても、もう一度やりたいということは、本当に絵を描くことが好きだったんだと思う。

※「絵を描くことが好き」のグループで短冊カードをまとめ、感じ方や考え方の違いについてクラス全体の話合いで交流していく。

S12： やなせさんにとっては、絵を描くことが生きる希望だったのではないかなと思う。

T： なるほど、絵を描くことが生きる希望だったんだね。他に考えのある人はいるかな。

S13： あせらず着実に努力してきたからだと思う。長い間描き続けてきたのは、着実に努力する気持ちがなければできないと思う。

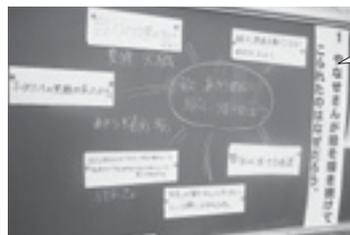
T： 途中で、くじけそうになったかもしれないね。最初は人気がなかったけれど、50年近く描き続けてきたやなせさんの支えとなったのはどんな気持ちだろうか。

S9： いつも新人の気持ちをもっていたから続けられたんじゃないかな。

T： なるほど、いつも新人の気持ちって、どんな気持ちかな。もう少し詳しく教えて。

S9： 初心を忘れないというか、自分に対し謙虚な気持ちというか。

T： なるほど、いいところに気が付いたね。自分が新人だったとき、あまり売れなかったとき、どんな気持ちがやなせさんを支えたのかな。



S14： あきらめない気持ちじゃないかな。

S15： 何があっても描き続けようとする強い気持ちなのかな。

S16： マンガを描くことを通して、子どもたちに夢や希望などのメッセージを伝えたいと強く思っていたからじゃないかな。

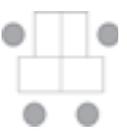
自分の考えをもたせる

- 話し合いに向けて、自分の考えをしっかりともたせるためワークシートに記述させる。また、机間指導を行い、ねばり強さや強い意志について記述できるように長い間絵を描き続けてきた理由は何か問いつける。 〈手立て②〉

グループでの話し合い

- ワークシートへの記述を基に、理由も含めてグループで話し合わせ、互いの感じ方や考え方を交流し、様々な理由があることを知る。 〈手立て②〉

※4人組グループで座席は図のとおり。後席の2人が前を向いており、話し合いもしやすく、板書も見やすい。



クラス全体での話し合い①

- 多様な感じ方や考え方のよさに触れ、道徳的なものの見方や考え方を深めさせるために、短冊カードを基に、各グループから出された考えをクラス全体で話し合わせ、同じような考えをまとめながら、価値の類型化をしていく。 〈手立て②〉

クラス全体での話し合い②

- 最後までやり抜こうとする気持ちや絵を描き続けようとする強い意志など価値に触れる発言や価値を深めるきっかけとなる発言をした生徒を賞賛する。 〈手立て②〉

クラス全体での話し合い③

- やなせさんを支えたものは、「あきらめない気持ち」「根気」「書き続けようとする強い意志」等であることに焦点化し、価値理解を深めていく、また、キーワードを中心部分に整理して板書する。 〈手立て②〉

3. 教師の説話を聞く。

・東日本大震災のとき、被災した人たちを勇気付けよう、励まそうと思って地元のラジオ局がかけたのがアンパンマンマーチでした。ラジオ局の人は、ずっと絵を描き続けてきたやなせさんの半生についても放送しました。28歳で上京してから、ずっと絵を描き続けて頑張った姿が、人々に生きる希望や勇気を与えたのかもしれない。

教師の説話

○道徳的価値に対する思いや考えをまとめ、実践への意欲を高めるために、アンパンマンマーチに関するエピソードを伝える。子どもの意識の流れが途切れないように、この位置に説話を入れた。

4. これまでの自分を振り返り、今日の授業で学んだこと考えたことを今後の生活にどのように生かしていくか書く。



○やなせさんは、19年間という、とても長い間努力してきたのだということを知って驚いた。その努力は現在すばらしい形を残していて、努力は裏切らないのだなと改めて感じた。また、努力を続けるためには、あきらめない強い気持ちや希望が必要なのだと思った。今年受験があり、これから更に努力が必要になってくると思う。

○今まで私は、自分が成功した後は、調子に乗ってしまい、その後も続けるべき努力をせずに過ごしていたように思う。しかし、今回のやなせさんの話を知って、何事も努力を怠らず、新人のように初心に戻って何かを進めていくことが大切なのだと考えた。そのためには、あきらめないという強い気持ちと根気、物事を長く見据えること、決して焦らないことが何よりも必要なのだと思う。

○今回の授業を通して、夢をあきらめようとしていた自分がすごく恥ずかしいと思った。夢を実現させるには日々の努力と着実な進歩が必要であると感じた。私はテストの点数が下がったり、自分にマイナスな面があると「私は駄目だ。」と考えてどんどん落ち込んでしまうので、やなせさんのように自分らしく毎日頑張りたい。また、常に「新人」の心をもって何事にも勇猛果敢にチャレンジしていきたいと思う。強い気持ちも養いたい。実現に向けて粘り強くあきらめず、毎日向上していきたいと思う。

※道徳的価値の理解（価値理解、人間理解、他者理解）、自分との関わりで道徳的価値をとらえること、道徳的価値を自分なりに発展させていく上での思いや課題に関して記述できるように促す。

自分自身を振り返る①

○自分自身を振り返り、道徳的価値を自分との関わりでとらえ、実践への意欲が高められるようにするため、ワークシートに記述する。机間指導を行い、自分との関わりで記述できるように促す。また、書く時間を十分に確保する。

自分自身を振り返る②

○振り返った記述の中で実践意欲を高めている生徒に発表させ、やり抜く強い意志について価値の共有を図れるようにする。

授業研究会のまとめ

【授業研究会での意見】

〈よかった点〉

- ・授業の前半部で示したことにより、中心発問についてじっくりと考える時間が確保できていた。
- ・個の考えを記述し、それをもとにグループでの話し合いがなされていた。4人組の机の配置等も工夫されていた。

〈改善点〉

- ・中心発問の前後の発問を含め、発問構成を含めて考えることが必要ではないか。
- ・グループでの話し合いが、書いたことを発表するだけで終わっていた班もあり、感じ方や考え方の違いに気付ける話し合いができるとよかった。
- ・話し合いの意図を明確にし、話し合いと発表を区別できるとよかった。

【参加者の声】（アンケートより）

- ・ねらいとする道徳的価値に迫ることができるように、中心発問を吟味すること、資料や掲示物の内容や提示のタイミングを工夫することを今後の実践に生かしたい。
- ・話し合い活動の形式が工夫されていて生徒一人一人が発表の場を与えられていて良かった。また話し合い活動が良くできる生徒達で普段の成果が出ていて参考になった。
- ・先生と生徒とのやりとりから、日頃の良好な学級経営を見習いたいと思った。一人一人の意見に共感的なあいづちが打っていて、生徒が安心して発表できていた。



実践事例【総合的な学習の時間】 整理・分析した思考の過程を生かして表現する授業

第1学年 単元名：『世界遺産伝道師になろう』

【本時について】

〈ねらい〉

課題を追究する過程で見出した富岡製糸場がもつ歴史的・文化的価値を小学生に説明することを通して、相手の立場に応じて、筋道立てて分かりやすく表現する力を高める。

〈伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力〉

- ・相手や目的に応じて、論理的に表現する力
- ・先人の働きや文化遺産のもつ価値に対する知識【社会】
- ・地域の産業に対する知識【社会】
- ・相手に分かりやすく話す技能【国語】



〈そのために取り入れた手立て〉

①整理・分析した思考の過程を生かした表現方法

- ・シンキングツールなどを用いて、整理・分析しながら考えたことを、順序立ててホワイトボードに示していく発表を協同で行わせる。

②相手意識や目的意識を明確にした発表活動

- ・地域の小学校の児童を相手に、パビリオン方式による少人数を対象とした発表を繰り返して行わせる。

単元の目標

富岡製糸場で解説に携わる方々とのかかわりを通して、富岡製糸場及び絹産業遺産群に対する関心や疑問を探究することで、富岡製糸場がもつ歴史的・文化的価値の理解を深め、これらに対する思いと誇りを高め、他者に説明できる資質と能力を育て、進んで伝えられるようにする。

指導計画（全12時間） **「指導プラン」P126**

過程	時間	主な学習活動	
つかむ	第1時 ～ 第3時	<ul style="list-style-type: none"> ○富岡製糸場を訪れて解説員の話聞く。 ○解説員の話から、気付きや疑問などを交流する。 ○気付きや疑問を整理し、追究したい課題を設定する。 ○追究の方向性を確認し、方法や分担を決める。 	<p>学習対象に興味・関心をもてる 出会いを工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現地を訪れて地域の専門家の話聞くことで、気付きやあこがれを生じさせ、学習対象への興味・関心を高めていく。
追究する	第4時 ～ 第8時	<ul style="list-style-type: none"> ○班ごとに追究に必要な場所や方法を選択して、人やものから課題解決に必要な情報を収集する。 ○追究で得た情報を互いに伝え合う。 ○収集した情報を班ごとに整理・分析しながら、富岡製糸場の価値について考える。 	<p>シンキングツールを活用して 整理・分析させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○収集した情報を比較したり関連付けたりして、自分で考えながら整理・分析させていく。
まとめる	第9時 ～ 第12時	<ul style="list-style-type: none"> ○富岡製糸場の価値をまとめる。 ○まとめた内容を互いに聞き合い、気付いた点を意見交換する。 ○富岡製糸場のもつ歴史的・文化的価値を小学生に解説する。 【本時】 ○活動を振り返り、見方や考え方の変化を見つめる。 ○今後の生活について考えていく。 	<p>相手意識や目的意識を 明確にして発表させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○誰に伝えるのかを明確にし、相手に応じた内容や表現方法を考えさせていく。

本時の流れ

1. 本時の課題をつかむ。

○富岡製糸場の東繭倉庫で、解説する中学生と解説を聞く小学生を集めて「自分のめあて」と活動の留意点を確認させる。

【本時の課題】 自分たちが見出した富岡製糸場の歴史的・文化的な価値を小学生に分かりやすく解説しよう。(中学生の課題)



T: 小学生は4班ずつ、AとBの2つのグループに分かれます。各グループごとに発表を聞くルートを地図で確認し、時間内に4つの班を廻って発表を聞いてください。

T: 発表する中学生は、事前に考えためあてを意識して、小学生が積極的に参加できる雰囲気を協力してつくっていきましょう。

T: 一般の方に迷惑をかけないように気を付け、互いに積極的に交流していきましょう。

相手意識を明確にする

○相手に応じた発表ができるように、発表の対象を明確にしていくことで、使用する言葉や伝える情報量について、相手の立場に立って考えさせる。 〈手立て②〉

実物を生かした発表をさせる

○自分たちが作成した資料の他に、地域の文化財等（富岡製糸場）を実際に利用することで、相手に実感をもたせられるようにする。

2. 発表内容を効果的に伝えられる場所に分かれ、パビリオン方式による解説をする。

○可視化した思考の過程をシンキングツールなどを使いながら、ホワイトボード上に表していくようにさせる。



S(中): 「繭」のすごいところは何でしょう? 「繭」と言って何を思い浮かべますか?

S(中): 製糸場に関わった人たちを「作った人」「働いていた人」「保存した人」の視点で整理してみました。

○問いかけたり、ホワイトボードに書き込んでもらったりして、積極的にコミュニケーションをとりながら解説していくようにさせる。

S(中): レンガの積み方について、どうしてフランス積みを選んだのでしょうか?

T: 小学生が〇〇についてもう少し詳しく説明してほしいそうです。

S(中): 〇〇の説明を聞いて感じたことを言ってください。



思考の過程を生かした表現方法を工夫させる

○班ごとに情報を整理・分析する際にシンキングツールを活用させる。その際に思考した過程をホワイトボード上に再現させていくようにすることで、相手に筋道を立てて分かりやすく解説できるようにする。 〈手立て①〉

コミュニケーションを重視した発表活動を取り入れる

○相手からの感想や質問などのフィードバックにより、自分たちが考えたことが伝わったという効力感を得ることができるよう、少人数を対象にして、コミュニケーションを積極的に取ることを重視した発表を設定していく。 〈手立て②〉

○1回目の自分たちの発表を振り返り、2回目、3回目がよりよいものになるよう修正部分を話し合わせる。



T:なぜ、小学生は積極的に答えてくれなかったのかな、考えてもらう時間を十分に取ることができたかな。

S(中):もう少し、大切な部分はゆっくり話していくようにしましょうよ。

S(中):次は実際のレンガを指さしながら説明して、積み方の様子をじっくり見てもらうようにしてみよう。



パピリオン方式で 発表を繰り返し行わせる

○相手からの感想や質問などのフィードバックを生かして自己評価を行い、発表内容や方法を絶えず見直ししながら工夫していくことができるようにする。

3. 本時の学習を振り返る

○東籬倉庫に戻り、活動の振り返りを各自のワークシートにまとめさせ、中学生の自己評価、小学生の感想を発表させる。

S(中):分かりづらい部分があったと思いますが、しっかり聞いてくれてありがとうございました。

S(小):みんなで一緒に考えながら、解説を聞いたので、レンガの積み方についてよく分かりました。



自己の変容を自覚させる

○単元の流れを示した計画表を用意しておき、毎時間の学習の成果を記述させ、記録を蓄積していくことで、学習前後の変化を自覚させる資料にしていく。振り返る際には、視点を明確にしていくようにする。

授業研究会のまとめ

【授業研究会での意見】

〈よかった点〉

- ・自分たちが調べて身に付けた知識を自分の言葉でまとめ、考えながら伝えることができていた。
- ・ホワイトボードを活用して、思考の過程を順序立てて示すことができていた。
- ・相手の様子を見ながらコミュニケーションをとったり、生徒同士が自然とアドバイスし合いながら発表することができていた。

〈改善点〉

- ・発表対象の実態を把握させるために、単元の前半に小学生と交流する活動を設定してもよかった。
- ・扱う言葉を易しくしたり、ボードに貼り付ける情報を減らしたりして、相手に応じて発表内容を精選して繰り返し練習していくことで、よりコミュニケーションを重視した発表ができたであろう。

【参加者の声】(アンケートより)

- ・自分が学んだことを整理・分析していくことで、新たな課題が見付き、追究を深めていった様子が発表を見て伝わってきた。
- ・ホワイトボードにより思考の過程を示し、相手を意識しながら行う発表方法は、これからの授業の発表の仕方を考える上でとても参考になった。
- ・地元の中学生在が世界遺産候補の富岡製糸場について、熱く語っている姿が心に残った。自分の地域に誇りをもてる生徒を育てていこうと感じた。



実践事例【学級活動】異なる意見に耳を傾け、折り合いを付けて話し合う授業

第3学年 議題：『学級全員で卒業まで充実した生活を送るための取組を決めよう』

【本時について】

〈ねらい〉

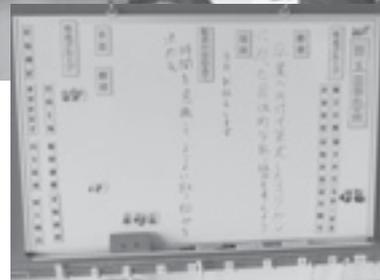
卒業へ向けて学級全員で策定した卒業スローガンを基に、よりよい学級について話し合うことを通して、学級全員で卒業まで充実した生活を送るための取組を決める。

〈伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力〉

- ・課題意識をもって話合いに臨む態度・意欲
- ・理由を明らかにして意見を発表する力
- ・折衷案や合体案となる新たな意見を考える力

【指導プラン】P129

- ・自治的な話合いの進め方についての理解



学級活動コーナー

〈そのために取り入れた手立て〉

よさを認め合い、折り合いをつけて集団決定する際の工夫

- ①事前に考えさせた意見準備シートの活用（出し合う場面）
- ②比較検討アドバイスシートの活用（比べ合う場面）

議題選定の理由

卒業や受験へ向けて、残り少ない最後の中学校生活を、学習面・生活面ともに充実させたいという思いが強くなってきている生徒たちが、事前に策定した卒業へ向けたスローガンに沿った具体的な取組を考える話合い活動を行うことによって、全員の思いを具現化したり、団結力を発揮したりできるようになり、よりよい卒業期を迎えることができると考えた。

指導の課程 【指導プラン】P128

時間	主な内容	主な学習活動
事前の活動	議題の発見 議題の選定と決定 活動計画の作成 問題の意識化	○議題に関するアンケートを作成する。(学級活動委員) ○提案された議題を整理し、選定する。(学級活動委員) ○活動計画を作成する。(学級活動委員) ○意見準備シートに自身の意見をまとめる。(全員)
本時の活動	導入 展開 まとめ	○意見準備シートに書いた自分の意見を学級の前で発表する。 ○他の意見のよさに着目して意見を述べる。 ○出された意見のよいところを生かして、まとめて集団決定する。
事後の活動	集団としての実践 活動の振り返り	○スローガンを意識した取組を振り返り、集団として実践しているかどうかを確認する。 ○充実した学校生活や進路実現に向けた個人及び集団に対しての取組を認め合う。

切実感のある議題を設定する

- 提案された議題が学級全員で話し合う必要があるかどうかを学級活動委員がよく吟味する。

分かり合う時間を確保する

- 意見を出し合うだけでなく、互いの意見を比べ合っ、折り合いを付けて決めるようにする。

実践に係る日常的な指導

- 実践が継続できるように、役割分担等も決めておく。
- 実践を評価し、課題がある場合は話合いで解決する。

〈これまでの話合い活動の議題例〉

- ・理想的な学級の姿について話し合い、級訓を考えよう。
- ・体育大会を成功させるために何をすべきか考えよう。
- ・あすなろ祭を成功させるために何をすべきか考えよう。 等

本時の流れ

1. 導入

(1) 学級活動委員の紹介

※出席番号順で組織

- 司会係 2人
- 記録係 1人
- 板書係 2人
- 計時係 1人



司会グループの自己紹介



学級活動(1)は、子どもたちの発意・発想から生まれる話し合い活動です。生徒の自主性を尊重しましょう。

自治的な活動としての組織づくり

○学級活動委員は輪番制とし、全員が経験できるようにする。

(2) 議題、提案理由の確認

〈提案理由〉

卒業へ向けて生活を充実させるために、事前に作成したスローガンに沿った具体的な取組をみんなで決めたいです。

〈くめあて〉

時間を意識して、よりよい取組を決めましょう。



【卒業へ向けたスローガン】
メリハリつけて楽しくしっかり
目指せ合格 団体戦で打ち勝とう!

問題の意識化

○より切実感をもって話し合いに臨む態度を促すために、先生の話を入れてもよい。

2. 展開

(1) 話し合い【集団討議】

①出し合う場面

司会：事前にみなさんから集めた意見を4つに分類しました。

【学習面】

・勉強に関する掲示物を増やす。
(つくる活動)

・わからない問題を相談し合う。

【生活面】 (やる活動)

・卒業カウントダウンカレンダーをつくる。
(つくる活動)

・学級行事を行う。
(やる活動)

学級活動委員準備シート

つくる活動	やる活動
<ul style="list-style-type: none"> ・勉強に関する掲示物を増やす ・勉強が得意な人に聞きに行く ・わからない問題を相談し合う ・卒業カウントダウンカレンダーをつくる ・学級行事を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級行事を行う ・卒業カウントダウンカレンダーをつくる ・学級行事を行う ・学級行事を行う ・学級行事を行う

意見準備シート

意見の出し合いの工夫

○意見を事前に出しておくことで、意見を比較・検討できる時間を確保できるようにする。〈手立て①〉



②比べ合う場面

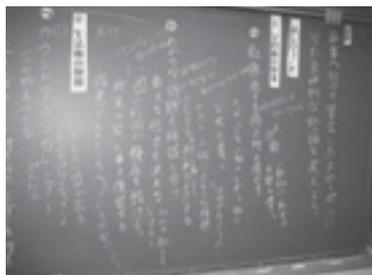
司会：4つの活動について何か意見はありますか。

- S：公式などを掲示するといいい。
- S：勉強の得意な人に聞きに行くといいい。
- S：一人一人コメント付きで、絵も入れよう。
- S：中で遊ぶものと外で遊ぶものを分けよう。



思考の可視化・操作化・構造化

○出された意見を分類し、比べやすくする。また、話し合いの流れが分かるように板書を工夫し、見通しをもたせる。



4つの活動ごとに板書

比較・検討アドバイスシート (司会用)

- ・学級全員で継続して取り組めるか
- ・男女関係なく取り組めるか
- ・卒業まで取り組めるか
- ・みんなの心が一つになれるか
- ・今まで培った学級の団結力がさらに高まるか
- ・準備するにあたり時間的に実行・作成できるか
- ・からかいや悪ふざけに発展しないか
- ・全員が無理せず取り組めるか
- ・実行することで本当に自分たちのためになるか
- ・スローガンの内容に沿ったものか

比べ合う際の視点の提示

○提案理由に沿った意見かどうかを比較検討するため、司会者に事前にアドバイスシートを渡しておく。意見が多く出たり、話し合いが混乱した時に活用できるようにする。

〈手立て②〉

先生の助言

教師：必ず実行するために、どこから手をつけていいか意見を出してください。

司会：4つの活動の優先順位を決めます。

S：どんどん日が進むので、カレンダーが最初。

S：貼るスペースがないので、掲示物は最後。

S：行事は計画を立てないとやらなくなる。

S：わからない問題を話し合うと成績があがる。

司会への助言



「つくる活動」と「やる活動」を分けて考えてみたら…

教師の助言のタイミング

- 話し合いが混乱した際には、司会の生徒とともに、学級全員に対しても助言し、学級の話し合いの力が高まるようにする。

3. まとめ

(1) 意見の統合【集団決定】

③決める場面

司会：つくる活動は、時間がかかるので、早く始めた方がいいという意見がありますが、いかがですか。

S：つくる活動は、みんなで同じ時間でつくる必要はないと思います。

司会：2つの活動を平行して進めていくことでいいでしょうか（全員拍手）。

司会：最後に、活動の中心になってくれる人を決めます。やってくれる人はいますか。

S：僕やります（男子拳手4人）。

S：私やります（女子拳手2人）。

記録：やる活動は日直と教科係、つくる活動は代表の人が中心となり、決まったことを全員で必ず実践しましょう。



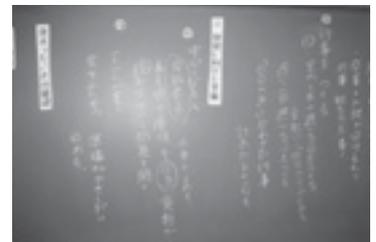
積極的な発言



記録係のまとめ

集団決定の留意点

- 司会には、一つの意見に対し、他の生徒がどう思うか、賛否を確認しながら集団決定を行うように進行させる。
- 「いつ」「だれか」「どのように」といった役割分担も決めておき、実現への見通しを立てておく。



終末の教師のまとめ

- 学級会の中でよかった点、実践へ向けての心構え、司会グループへの労いなどを伝え、実践への意欲を高めるようにする。

(2) 先生の話



学級のために、活発な話し合いをしてくれてありがとう。決まったことは学級活動コーナーに記入をしますので、実践してください。最後に、事前の準備から今日の話合い活動まで中心となって動いてくれた学級活動委員のみなさんに拍手を送りましょう。

授業研究会のまとめ

【授業研究会での意見】

〈よかった点〉

- ・様々な意見交換をする中で自然に練り上げられ、折り合いを付けることができていた。
- ・明確な理由をもった発言、ルールづくり、共感的な人間関係等、日常の指導が確立されていた。

〈改善点〉

- ・意見準備シートを子どもの思考の深まりが見えるものにするとうい。
- ・話し合うべき視点が見過ごされてしまった場面もあった。生徒が視点を意識した学級活動をスタンダード化していけるとよい。

【参加者の声】（アンケートより）

- 司会、板書のさせ方、事前指導の内容、輪番制による司会グループ等、学級活動をこんな風にするれば生徒が変わると思った。
- 日頃の教師と生徒、生徒同士の人間関係づくりが大切だとつくづく感じた。特に、他の生徒の意見に対して、否定的にとらえず、よりよいものになるように考えている生徒の姿に感心した。
- 話し合い活動は、比べ合う時間をいかに確保するかが重要で、そのために、事前の活動を充実させ、時間をとることが必要だとわかった。



「基礎・基本習得のための実践研究事業」関係者、関係機関

【基礎・基本習得プロジェクト会議委員】

江 森 英 世	群馬大学教育学部教授（附属小学校長）
西 蘭 大 実	群馬大学教育学部教授（附属中学校長）
中 澤 四 郎	安中市教育委員会教育長（県都市教育長協議会代表）
阿 佐 見 純	榛東村教育委員会教育長（県町村教育長会代表）
清 水 英 明	前橋市立中央小学校長（県小学校長会長）
立 見 康 彦	前橋市立箱田中学校長（県中学校長会長）
堀 澤 勝	県総合教育センター所長
松 本 昭 彦	県教育委員会学校人事課長
須 藤 隆	県教育委員会特別支援教育室長
林 康 宏	県教育委員会健康体育課長
中 村 和 雄	西部教育事務所長（教育事務所長会代表）
久 保 信 行	県教育委員会義務教育課長

【学 校】	【市町村教育委員会】	【県教育委員会】
前橋市立第五中学校	前橋市教育委員会	義務教育課
前橋市立木瀬中学校	伊勢崎市教育委員会	健康体育課
伊勢崎市立宮郷中学校	渋川市教育委員会	中部教育事務所
渋川市立赤城北中学校	高崎市教育委員会	西部教育事務所
高崎市立箕郷中学校	藤岡市教育委員会	吾妻教育事務所
藤岡市立小野中学校	富岡市教育委員会	利根教育事務所
富岡市立東中学校	安中市教育委員会	東部教育事務所
安中市立第二中学校	長野原町教育委員会	総合教育センター
長野原町立西中学校	沼田市教育委員会	
沼田市立白沢中学校	桐生市教育委員会	
桐生市立相生中学校	太田市教育委員会	
太田市立宝泉中学校	千代田町教育委員会	
千代田町立千代田中学校		

